言語聴覚士学科　授業科目一覧

※　実務経験のある教員等による授業科目

医療職業実践専門課程
言語聴覚士学科

科目区分	授業科目	講義	演習	実習	授業・演習1単位＝22.5時間　実習1単位＝40時間 1年次	2年次	3年次	4年次	計	単位
基礎分野	文章読解	○				30			30	1
	ライティング	○			30				30	1
	コミュニケーション学	○			30				30	1
	倫理学	○			30				30	1
	経済学	○			30				30	1
	医療事務	○			30				30	1
	科学Ⅰ	○			30				30	1
	科学Ⅱ	○			30				30	1
	科学Ⅲ	○			30				30	1
	統計学	○			30				30	1
	基礎英語Ⅰ	○			30				30	1
	基礎英語Ⅱ	○			30				30	1
	医学英語Ⅰ	○				30			30	1
	医学英語Ⅱ	○				30			30	1
	体育実技Ⅰ		○		30				30	1
	体育実技Ⅱ		○		30				30	1
	小　計				390	90	0	0	480	16
専門基礎分野	医学総論Ⅰ	○			30				30	1
	医学総論Ⅱ	○			30				30	1
	解剖学Ⅰ	○			30				30	1
	解剖学Ⅱ	○			30				30	1
	生理学Ⅰ	○			30				30	1
	生理学Ⅱ	○			30				30	1
	病理学	○				30			30	1
	内科学Ⅰ	○			30				30	1
	内科学Ⅱ	○			0	30			30	1
	小児科学	○				30			30	1
	精神医学	○					30		30	1
	リハビリテーション医学	○				30			30	1
	臨床神経学	○					30		30	1
	耳鼻咽喉科学	○					30		30	1
	形成外科学	○				30			30	1
	臨床歯科医学Ⅰ	○			30				30	1
	臨床歯科医学Ⅱ（口腔外科学）	○					30		30	1
	呼吸発声発語系の構造，機能，病態	○				30			30	1
	聴覚系の構造，機能，病態	○			30				30	1
	神経系の構造，機能，病態	○				30			30	1
	認知心理学	○				30			30	1
	学習心理学	○			30				30	1
	臨床心理学Ⅰ	○				30			30	1
	臨床心理学Ⅱ	○				30			30	1
	心理測定法	○				30			30	1
	生涯発達心理学Ⅰ	○					30		30	1
	生涯発達心理学Ⅱ	○					30		30	1
	言語学Ⅰ	○			30				30	1
	言語学Ⅱ	○			30				30	1
	音声学Ⅰ	○			30				30	1
	音声学Ⅱ	○			30				30	1
	音響学Ⅰ	○			30				30	1
	音響学Ⅱ（聴覚心理学）	○			30				30	1
	言語発達学Ⅰ	○			30				30	1
	言語発達学Ⅱ	○			30				30	1
	社会保障制度／関係法規Ⅰ	○				30			30	1
	社会保障制度／関係法規Ⅱ	○						30	30	1
	リハビリテーション概論	○			30				30	1
	小　計				570	360	180	30	1140	38
専門分野	言語聴覚障害学総論Ⅰ	○			30				30	1
	言語聴覚障害学総論Ⅱ	○			30				30	1
	言語聴覚障害診断学　総論Ⅰ	○	○				30		30	1
	言語聴覚障害診断学　総論Ⅱ	○	○				30		30	1
	言語聴覚障害診断学　実習指導Ⅰ（前期・後期）	○	○			60			60	2
	言語聴覚障害診断学　実習指導Ⅱ①②③	○	○				120		120	4
	言語聴覚障害診断学　実習指導Ⅲ①②	○	○					120	120	4
	失語症Ⅰ	○				30			30	1
	失語症Ⅱ	○				30			30	1
	失語症Ⅲ	○					30		30	1
	失語症Ⅳ	○					30		30	1
	高次脳機能障害Ⅰ	○				30			30	1
	高次脳機能障害Ⅱ	○					30		30	1
	言語発達障害学総論Ⅰ	○				30			30	1
	言語発達障害学総論Ⅱ	○				30			30	1
	言語発達障害学（ＣＰ）	○					30		30	1
	言語発達障害学Ⅰ（評価・指導・訓練）	○	○			30			30	1
	言語発達障害学Ⅱ（AAC含む）	○					30		30	1
	言語発達障害学Ⅲ（AAC含む）	○					30		30	1
	器質性構音障害	○				30			30	1
	機能性構音障害	○				30			30	1
	吃音	○				30			30	1
	音声障害	○					30		30	1
	運動障害性構音障害Ⅰ	○				30			30	1
	運動障害性構音障害Ⅱ	○					30		30	1
	嚥下障害Ⅰ	○				30			30	1
	嚥下障害Ⅱ	○				30			30	1
	嚥下障害Ⅲ	○	○				30		30	1
	嚥下障害Ⅳ	○	○				30		30	1
	聴覚障害Ⅰ（小児・成人）	○			30				30	1
	聴力検査Ⅰ				30				30	1
	聴力検査Ⅱ		○		30				30	1
	聴覚障害Ⅱ（疾患学）	○						30	30	1
	小児聴覚障害演習		○			30			30	1
	視覚・聴覚二重障害	○						30	30	1
	聴力検査・補聴器	○	○			30			30	1
	見学実習			○			40		40	1
	評価実習			○			120		120	3
	病院実習			○				320	320	8
	小　計				150	480	640	500	1770	55
選択必修科目	マナー講座	○	○					30	30	1
	口腔ケア学	○	○				30	0	30	1
	福祉実習			○		160	40		200	5
	国家試験対策講座Ⅰ	○					120		120	4
	国家試験対策講座Ⅱ	○						360	360	12
	小　計				0	160	190	390	740	23
	合　計				1110	1090	1010	920	4130	132

成績の評価及び履修認定について

（授業科目履修の認定に係る学則）

第 23 条　授業科目の履修に関しては、授業時間数の３分の２以上出席し、試験に合格した者に、所定の単位を与える。ただし平素の学習状況又は論文等をもって試験に代えることができる。

2　試験の成績の評価は、秀、優、良、可又は不可とし、秀、優、良及び可を合格とする。

3　前項の秀は 90 点、優は 80 点、良は 70 点、可は 60 点割を基準とし、総合的な評価を行なう。

（GPA の導入について）

GPA（Grade Point Average）とは、履修した科目１単位あたりの成績平均点を算出する方法であり、GP に該当科目の単位数を乗じて合計し、総単位数で除して履修した科目１単位あたりの成績平均点を算出する。計算結果は小数点以下第３位を切り捨てして表記する。

1　成績評価の適切な取組の概要

成績評価については、「秀(90点)、優(80点)、良(70点)、可(60点)、不可」の５段階で評価し、可以上で合格となる。また，GP（Grade Point）としては、「秀は4.0、優は3.0、良は2.0、可は1.0、不可は0.0」とする。

GPA 算出式

$$\mathrm{GPA} = \frac{\text{（履修科目の単位数×ポイント）の合計}}{\text{履修した講義の総単位数}}$$

２．ＧＰＡの種類

GPA は年度ごとに算出したもの（年度GPA）、入学時から現在の学期まで通算したもの（累積GPA）があり、その計算方法は次のとおり。

①年度GPA

当該年度に履修し成績評価を受けた授業科目全体のGP 合計を当該年度の履修総単位数で除して算出する。

②累積GPA

入学時から現在の学期までに履修し成績評価を受けた授業科目全体のGP 合計を入学時
からの履修総単位数で除して算出する。

授業科目区分	基礎	担当科目	文章読解	単位数	1	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	林 耕司			受講学科	ST学科		
				学 年	2年		

実務家教員としての経歴
甲州中央温泉病院 リハ科 3年
長野赤十字病院 リハ科 34年
現在は長野保健センター・千曲保健センター・愛の樹園・あすなろ園で小児領域の相談・訓練

学期区分				
	前期	水曜日 4時限	講義室等	202
	後期		授業形式	講義

授業のねらい、目標	成績評価の方法
様々なジャンルの文章を読み読解力を養いながら、自分が関心のある領域の言語障害について調べ発表する。 1、新聞の医療・福祉・保健に関する記事を読み感想を記す。 2、絵本・詩・随筆・ノンフィクション・小説を読む。 3、患者・家族の体験記や言語障害領域の論文を読む。 4、関心のある言語障害について文献を読み込み、まとめ、発表する。	・出席日数 ・提出レポート内容 ・発表内容 ・授業参加態度
授業概要	教科書
読んだ内容についてグループで話し合い発表する。	参考書

履修上の注意事項	

授業の計画

〈前学期〉		〈後学期〉	
第1回	新聞記事を読み感想を記す①	第1回	
第2回	新聞記事を読み感想を記す②	第2回	
第3回	新聞記事を読み感想を記す③	第3回	
第4回	新聞記事を読み感想を記す④	第4回	
第5回	新聞記事を読み感想を記す⑤	第5回	
第6回	ノンフィクションを読む	第6回	
第7回	詩を読む	第7回	
第8回	障害体験記を読む①	第8回	
第9回	障害体験記を読む②	第9回	
第10回	障害体験記を読む③	第10回	
第11回	論文を読む①	第11回	
第12回	論文を読む②	第12回	
第13回	論文を読む③	第13回	
第14回	発表①	第14回	
第15回	発表②	第15回	

授業科目区分	基礎	担当科目	ライティング	単位数	1	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	白井 結			受講学科	言語聴覚士学科		
				学 年	1年生		
実務家教員としての経歴							
学期区分	前期	月曜日 1時限		講義室等	201		
	後期			授業形式	講義、演習		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
後期のコミュニケーション学と合わせて、STを理解しそれに向けて自分自身の力の考察を行う。読む力、考察する力、書く力の向上を目指す	受講態度、提出課題で評価
	教科書
授業概要 文献の検索方法を学び、文献に対する要約や感想 などを書く事で書く力の向上にもつなげる。 また、作文や論文を書くことにより文章を組み立てる、書くことに慣れていく。	なし
	参考書
	なし

履修上の注意事項	

授業の計画

〈前学期〉		〈後学期〉	
第1回	課題に対して考察する。	第1回	
第2回	考察した内容を文章化する。	第2回	
第3回	課題に対して考察する。	第3回	
第4回	考察した内容を文章化する。	第4回	
第5回	課題に対して考察する。	第5回	
第6回	考察した内容を文章化する。	第6回	
第7回	課題に対して考察する。	第7回	
第8回	考察した内容を文章化する。	第8回	
第9回	課題に対して考察する。	第9回	
第10回	考察した内容を文章化する。	第10回	
第11回	課題に対して考察する。	第11回	
第12回	考察した内容を文章化する。	第12回	
第13回	まとめと補足	第13回	
第14回	まとめと補足	第14回	
第15回	まとめと補足	第15回	

授業科目区分	基礎	担当科目	コミュニケーション学	単位数	1	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	富井　浩子			受講学科	言語聴覚士学科		
				学　年	1年		
実務家教員としての経歴							
学期区分	前期	曜日　時限		講義室等	201教室		
	後期	火曜日　4時限		授業形式	講義		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
	学習態度
	教科書
授業概要	なし
	参考書

履修上の注意事項	演習的な内容には、積極的に参加してください。積極性を評価します。

授　業　の　計　画

〈前　学　期〉		〈後　学　期〉	
第1回		第1回	フィールドワーク（準備）
第2回		第2回	フィールドワーク①（保育園） 9/7～9/30
第3回		第3回	フィールドワーク②（保育園） 9/7～9/30
第4回		第4回	声を出す① 読み聞かせ
第5回		第5回	声を出す② 手遊び歌
第6回		第6回	身体を動かす① 指文字・手話
第7回		第7回	身体を動かす② AAC
第8回		第8回	集団活動① SST
第9回		第9回	集団活動② SST
第10回		第10回	制作① 私の地元紹介
第11回		第11回	制作② 私の地元紹介
第12回		第12回	フィールドワーク③（保育園） 3/8～3/30
第13回		第13回	フィールドワーク④（保育園） 3/8～3/30
第14回		第14回	フィールドワーク⑤（保育園） 3/8～3/30
第15回		第15回	フィールドワーク⑥（保育園） 3/8～3/30

授業科目区分	基礎	担当科目	倫理学	単位数	1	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	大日方 悦夫			受講学科	言語聴覚士学科		
				学年	1年		
学期区分	前期	水曜日 4時限		講義室等	201		
	後期			授業形式	講義		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
①生命倫理に関わる諸問題を学び、理解し、自分の考えをまとめる。 ②「優生思想」の背景と思想を歴史的事実から学び、問題点を理解する。 ③患者中心、患者本位の立場に立った医療のあり方について理解する。 ④性の多様性はじめ、多様な人々による共生の意義を理解し、共生社会のあり方を考え、自分の意見を表明できるようにする。	①定期試験、レポート、小テスト ②授業内の学習活動(グループワークほか) 上記の①、②を基本に総合的に評価する。
授業概要	教科書
生命倫理に関わる諸問題について講義とグループワークを中心に進める。「安楽死」、「脳死と臓器移植」、「出生前診断」など意見が分かれる問題について学び、自分の考えをまとめる。理解を深めるため、映像やプリント、レポート作成などを併用する。	・『はじめて出会う生命倫理』(有斐閣アルマ)
	参考書
	・授業時配布プリント ・授業時に参考書を提示する

履修上の注意事項	

授業の計画

〈前学期〉		〈後学期〉	
第1回	オリエンテーション－「生命」と倫理	第1回	
第2回	「優生思想」と生命倫理について考える	第2回	
第3回	生命の終わり－安楽死・尊厳死から考える①	第3回	
第4回	生命の終わり－安楽死・尊厳死から考える②	第4回	
第5回	生命の終わり－安楽死・尊厳死から考える③	第5回	
第6回	生命の終わり－脳死と臓器移植から考える①	第6回	
第7回	生命の終わり－脳死と臓器移植から考える②	第7回	
第8回	生命の始まり－生殖補助医療技術から考える	第8回	
第9回	生命の始まり—出生前診断から考える	第9回	
第10回	「再生医療」について考える	第10回	
第11回	「セクシュアリティと性の多様性」について考える	第11回	
第12回	感染症の歴史	第12回	
第13回	病者への差別と排除について考える	第13回	
第14回	患者中心の医療－インフォームド・コンセント	第14回	
第15回	まとめ－学習を終るにあたって	第15回	

授業科目区分	基礎	担当科目	経済学	単位数	1	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	大日方　悦夫			受講学科	言語聴覚士学科		
				学　年	1年		
学期区分	前期			講義室等	201		
	後期	水曜日　4時限		授業形式	講義		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
①資本主義経済のしくみを理解する。 ②バブルからアベノミクスまでの日本経済のあゆみを理解する。 ③現代の問題（環境・食糧・社会保障など）などについて理解する。 ④経済のしくみと問題点を知るだけでなく、自分の考えを表明できるようにする。	①定期試験、レポート、小テスト ②授業中の学習活動（グループワークなど） 上記の①、②を基本に総合的に評価する。
授業概要	教科書
経済学の基礎について講義する。具体的には、資本主義経済の基礎理論市場経済の仕組み、金融のしくみ、税金、そして日本経済のあゆみなどの学習をベースに現代日本の問題について考える。理解を深めるため、映像やグループ討論、レポート作成なども併用する。	・池上彰『池上彰のやさしい経済学』 ・授業時配布プリント
	参考書
	・授業時配布のプリント、高校教科書『政治・経済』 ・授業時に参考書を提示する

履修上の注意事項	

授業の計画

〈前学期〉		〈後学期〉	
第1回		第1回	オリエンテーション－経済学とは何か
第2回		第2回	資本主義経済－アダムスミスとマルクスから考える
第3回		第3回	資本主義経済－ケインズとフリードマンから考える
第4回		第4回	市場経済のメカニズム－需要と供給から考える
第5回		第5回	市場経済のメカニズム－「市場の失敗」から考える
第6回		第6回	現代の企業－役割と責任について考える
第7回		第7回	金融の仕組み－お金の役割について考える
第8回		第8回	金融の仕組み－日本銀行の役割から考える
第9回		第9回	財政の仕組みと役割－「財政赤字」について考える
第10回		第10回	財政の仕組みと役割－「税金」から考える
第11回		第11回	日本経済のあゆみ－バブルからアベノミクスまで
第12回		第12回	国民の暮らし－「食糧問題」から考える
第13回		第13回	労働関係－「働き方改革」について考える
第14回		第14回	社会保障と福祉－日本の社会保障について考える
第15回		第15回	まとめ－学習を終るにあたって

授業科目区分	基礎	担当科目	医療事務	単位数	1	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	西條一彦			受講学科	言語聴覚士学科		
				学年	1年		
学期区分	前期	曜日　時限		講義室等	201		
	後期	木曜日　2時限		授業形式	講義		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
誰にとっても身近な医療制度について概観し、制度の基本となっている医療法と健康保険法について理解する。次に言語聴覚士として知っておくべき診療に拘わる様々なルールと言語聴覚療法が含まれている診療報酬制度を学習することで、リハビリテーション医療の質の向上に貢献できる言語聴覚士を目指す。	期末試験で評価。 出席や授業態度、レポートなども評価に含める。
授業概要	教科書
スライドを使って，講義を中心に進めます。	なし
	参考書

履修上の注意事項	教科書に眼を通し授業に臨むこと。

授業の計画

〈前学期〉		〈後学期〉	
第1回		第1回	イントロダクション、医療制度の概要
第2回		第2回	医療法
第3回		第3回	療養担当規則
第4回		第4回	診療報酬の仕組みと請求事務の流れ
第5回		第5回	リハビリテーション診療報酬点数表の変遷
第6回		第6回	特掲診療料疾患別リハビリテーションにおける算定項目
第7回		第7回	回復期リハビリテーション病棟の施設基準
第8回		第8回	診療録の重要性と記載に当たっての留意事項
第9回		第9回	保険診療における審査・指導・監査
第10回		第10回	診療録の作成（TV ドラマ「はつ恋」の臨床場面から）
第11回		第11回	診療情報管理
第12回		第12回	病院機能評価とリハビリテーション
第13回		第13回	介護保険のリハビリテーション
第14回		第14回	地域医療連携と経営管理
第15回		第15回	模擬試験

授業科目区分	担当科目	科学Ⅰ	単位数	1	選択必修	必修
			時間数	30		
担当教員	二宮 晏		受講学科	言語聴覚士学科		
			学年	1年		
学期区分	火曜日 3時限		講義室等	201		
	曜日 時限		授業形式	講義		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
高校までの数学をもとにして現代数学の一面を見ることによって視野を広げ、数学的な思考方法を身につける。	出席状況、受講態度、課題、レポート等により総合的に判定します。
授業概要	教科書
数学は今もなお大きく発展進歩していますが、その状況は社会の人に知られていません。この授業では易しい題材を元にして現代の数学を見てみます。	教材を配布します。教科書は使用しません。
	参考書
	なし

履修上の注意事項	数学は難しいと一般的に言われますが、授業では楽しく数学を学びましょう。 質問等はいつでも受け付けます。

授業の計画

〈前学期〉		〈後学期〉	
第1回	講義を始めるにあたって	第1回	
第2回	数学は社会の役に立つか（1）	第2回	
第3回	数学は社会の役に立つか（2）	第3回	
第4回	組み合わせの数から見る数学の諸相	第4回	
第5回	作図問題について	第5回	
第6回	現代の幾何学の一面（1）	第6回	
第7回	現代の幾何学の一面（2）	第7回	
第8回	有限から無限へ	第8回	
第9回	整数について（1）	第9回	
第10回	整数について（2）	第10回	
第11回	ピタゴラスの定理に関して（1）	第11回	
第12回	ピタゴラスの定理に関して（2）	第12回	
第13回	直角三角形の面積（1）	第13回	
第14回	直角三角形の面積（2）	第14回	
第15回	フェルマーの定理	第15回	

授業科目区分	基礎	担当科目	科学Ⅱ,Ⅲ	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	60		
担当教員	白井結			受講学科	言語聴覚士学科		
				学年	1年		
学期区分	前期	木曜日 1時限		講義室等	201		
	後期	月曜日 1時限		授業形式	講義		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
進研アド教材における基礎的医学を学ぶ。	授業態度、提出物により評価する。
	教科書
授業概要	なし
1. ヒトの基礎を理解する。 2. 科学的なものの見方を学ぶ。 3. 数量的なものの見方を学ぶ。	参考書 進研アド入学前教育プログラム

履修上の注意事項	

授業の計画

〈前学期〉		〈後学期〉	
第1回	Unit1	第1回	Unit12
第2回	Unit2	第2回	Unit13
第3回	Unit3	第3回	Unit14
第4回	Unit4	第4回	Unit15
第5回	Unit5	第5回	Unit16
第6回	Unit6	第6回	Unit17
第7回	Unit7	第7回	Unit18
第8回	Unit8	第8回	Unit19
第9回	Unit9	第9回	Unit20
第10回	Unit10	第10回	Unit21
第11回	Unit11	第11回	Unit22
第12回	まとめと補足	第12回	まとめと補足
第13回	まとめと補足	第13回	まとめと補足
第14回	まとめと補足	第14回	まとめと補足
第15回	まとめと補足	第15回	まとめと補足

授業科目区分	基礎	担当科目	統計学	単位数	1	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	万年康男			受講学科	言語聴覚士学科		
				学年	1年		
実務家教員としての経歴	小学校ことばの教室(通級指導) 20年 特別支援学校 教育相談(発達障害等巡回相談) 16年 大学院研究(聴覚障害)2年 本校教員兼務(非常勤講師)15年						
学期区分	前期	火 曜日 2時限		講義室等	201		
	後期			授業形式	講義		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
ねらい ①これから4年間学習していくために、②国家試験に合格するために、③STとしてチーム医療に参画するために、必須となる統計学の基礎的な用語・知識・考え方を理解する。 目標 統計学分野の国試レベルの問題が解けるようになること。	①授業態度 ②小テスト ③筆記試験 以上を総合して得点化して評価する
	教科書
授業概要	言語聴覚士テキスト
・基礎的かつ具体的な(身近な)内容(例題)をもとに、一緒に考えたり、意見交換しながら授業を進めます。	参考書
	配布資料

履修上の注意事項	その都度、中学・高校の数学(確率や統計分野)の復習をすると理解が進むと思われます。

授業の計画

〈前学期：統計学〉		<後学期： >	
第1回	数学の基本事項の復習	第1回	
第2回	統計学を学ぶ意義	第2回	
第3回	情報 データ	第3回	
第4回	代表値	第4回	
第5回	分散 標準偏差	第5回	
第6回	グラフ 分布	第6回	
第7回	尺度水準	第7回	
第8回	母集団 標本 抽出	第8回	
第9回	相関	第9回	
第10回	検定	第10回	
第11回	ノンパラメトリック検定	第11回	
第12回	分析	第12回	
第13回	国家試験にチャレンジ	第13回	
第14回	小テスト	第14回	
第15回	まとめ	第15回	

授業科目区分	基礎	担当科目	基礎英語	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	60		
担当教員	井戸和宏			受講学科	言語聴覚士学科		
				学年	1年		
学期区分	前期	木曜日　4時限		講義室等	201		
	後期	木曜日　4時限		授業形式	講義		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
英文法を単元ごとに学習して、英文法の基礎を身につける。 英文の語順や文型に注意を払って、英文を分析する力や正しい英文が作れる力を身につける。 短めの英語長文を読んで内容を正しく理解し、内容についての英文の質問に、英文で正しく答えられる力を身につける。	小テストと期末テスト
	教科書
授業概要	English Primer / 大学生の英語入門
英文を、「主語」「動詞」「その他の要素」「修飾語」に分析しながら英文を読み下して、問題を解き進める。英文の語順や構造を考え、自分の書いた穴埋め問題や英作文の答えの、正しい理由、間違っている理由を理解する。	参考書

履修上の注意事項	

授業の計画

〈前学期〉		〈後学期〉	
第1回	授業説明　unit1　be動詞	第1回	unit11　比較
第2回	unit 1　be動詞	第2回	unit12　命令文、感嘆文
第3回	unit 2　一般動詞（現在）	第3回	unit13　接続詞①
第4回	unit 3　一般動詞（過去）	第4回	unit17　接続詞②
第5回	unit 4　進行形	第5回	復習、他
第6回	unit 5　未来形	第6回	unit14　不定詞①、動名詞①
第7回	unit 6　助動詞	第7回	unit20　不定詞②
第8回	復習、他	第8回	unit21　It の特別用法
第9回	unit15 受動態	第9回	unit22　分詞、動名詞②
第10回	unit16 完了形	第10回	復習、他
第11回	unit 7　名詞	第11回	unit23　関係代名詞
第12回	unit 8　代名詞	第12回	unit24　仮定法
第13回	unit 9　前置詞	第13回	unit18　五つの基本文型
第14回	unit10 形容詞、副詞	第14回	unit19　各種疑問文
第15回	復習、他	第15回	復習、他

授業科目区分	基礎	担当科目	医学英語	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	60		
担当教員	井戸和宏			受講学科	言語聴覚士学科		
				学年	2年		
学期区分	前期	月曜 4時限		講義室等	202		
	後期	月曜 4時限		授業形式	講義		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
1年次の基礎英語で学んだ「英文法」と「英文分析の力」を使って、医療に関連した英語長文を読み、正しく理解するとともに、医療に関する興味、関心を高め、考えるきっかけを持つ。	小テストと期末テスト
	教科書
授業概要	やさしい英語ニュースで学ぶ、現代社会と健康
意味の塊ごとに、前から後ろへ読み下していく形で英文を読み進める。英文は、全文の日本語訳はせず、塊ごとの日本語訳にとどめ、直読直解の読み方を練習する。	参考書

履修上の注意事項	

授業の計画

〈前学期〉		〈後学期〉	
第1回	1.子どもの発達発育に欠かせないもの①	第1回	5.喫煙に安全なレベルは存在するのか①
第2回	1 ②	第2回	5 ②
第3回	1 ③	第3回	5 ③
第4回	1 ④	第4回	5 ④
第5回	2.世界一健康な人たちが食べるもの①	第5回	8.有害物質の行きつく先 ①
第6回	2 ②	第6回	8. ②
第7回	2 ③	第7回	8. ③
第8回	2 ④	第8回	8 ④
第9回	3.運動はアルツハハイマー病にも有効的①	第9回	12.生かされない教訓 日本の過労死問題
第10回	3. ②	第10回	12 ②
第11回	3 ③	第11回	12 ③
第12回	4.睡眠不足がもたらす健康被害①	第12回	12. ④
第13回	4 ②	第13回	12. ⑤
第14回	4 ③	第14回	12. ⑥
第15回	4 ④	第15回	12. ⑦

授業科目区分	基礎	担当科目	体育	単位数	1	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	山﨑　絵美子			受講学科	言語聴覚士学科		
				学　年	1　年		
学期区分	前期	火曜日1時限		講義室等	上田城跡公園第一・二体育館		
	後期	火曜日1時限		授業形式	演習		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
集団で運動をすることにより基礎体力を維持すると共に精神的充実感を得る	出席状況と授業態度により評価する。
	教科書
授業概要	-
近年では社会が利便化するにつれ、人々の運動不足が懸念されている。 本授業では、運動不足解消の一環となるよう球技を中心としたスポーツを通し	参考書
学生の運動習慣を継続させる。	-

履修上の注意事項	1、授業開始5分前には直接体育館に集合し、体操着に着替えておくこと。(私服不可) 2、上履きを持参すること。

授業の計画

〈前学期〉		〈後学期〉		
第1回	オリエンテーション ドッチボール	第1回	オリエンテーション ドッチボール	
第2回	ドッチボール	第2回	ドッチボール	
第3回	バスケットボール①	第3回	バスケットボール①	
第4回	バスケットボール②	第4回	バスケットボール②	
第5回	バスケットボール③	第5回	バスケットボール③	
第6回	バスケットボール④	第6回	バスケットボール④	
第7回	ソフトバレー①	第7回	ソフトバレー①	
第8回	ソフトバレー②	第8回	ソフトバレー②	
第9回	ソフトバレー③	第9回	ソフトバレー③	
第10回	ソフトバレー④	第10回	ソフトバレー④	
第11回	卓球・バドミントン①	第11回	卓球・バドミントン①	
第12回	卓球・バドミントン②	第12回	卓球・バドミントン②	
第13回	卓球・バドミントン③	第13回	卓球・バドミントン③	
第14回	卓球・バドミントン④	第14回	卓球・バドミントン④	
第15回	卓球・バドミントン⑤	第15回	卓球・バドミントン⑤	

授業科目区分	専門基礎	担当科目	医学総論Ⅰ、Ⅱ	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	60		
担当教員	中村　和男			受講学科	言語聴覚士学科		
				学　年	1年		

実務家教員としての経歴
回復期リハビリテーション　2年
介護福祉施設　3年
教員業務　3年

学期区分	前期	金曜日　3時限	講義室等	201
	後期	金曜日　2時限	授業形式	講義・調べ学習・発表

授業のねらい、目標	成績評価の方法
1. 医学の基本的な考え方、歴史、社会的な位置付けや意義などについて学ぶ 2. 決められたテーマについての調べ学習・発表を通じて、自身で学習の掘り下げをおこなえるようになる 3. 調べ学習やドリルを通じて今後必要となる自己学習習慣の定着を図る	学期末試験 提出物、発表内容、質疑応答においても評価
	教科書
授業概要	言語聴覚士テキスト第3版
講義を行い、そのテーマのカテゴリー内において、タイトルフリーで調べ学習～発表までを行う 国家試験出題箇所については適宜、ドリル・小テストにより記憶の定着を図る	参考書

履修上の注意事項	

授業の計画

〈前学期〉		〈後学期〉	
第1回	医学の歴史	第1回	健康管理(老人保健)
第2回	～ 発表 ～	第2回	～ 発表 ～
第3回	健康・疾病・障害と社会環境（ICFなど）	第3回	感染症、環境保健
第4回	～ 発表 ～	第4回	～ 発表 ～
第5回	医の倫理	第5回	応急処置、終末期医療
第6回	～ 発表 ～	第6回	～ 発表 ～
第7回	地域医療	第7回	脳疾患調べ学習　グループワーク
第8回	～ 発表 ～	第8回	〃
第9回	チーム医療・他職種について	第9回	グループ発表
第10回	～ 発表 ～	第10回	グループ発表
第11回	高齢社会	第11回	神経筋疾患調べ学習　グループワーク
第12回	～ 発表 ～	第12回	〃
第13回	疾病・障害統計・疫学	第13回	グループ発表
第14回	～ 発表 ～	第14回	グループ発表
第15回	まとめ	第15回	まとめ

授業科目区分	専門基礎	担当科目	解剖学Ⅰ、Ⅱ	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	60		
担当教員	坂井　隆一			受講学科	言語聴覚士学科		
				学　年	1年生		
実務家教員としての経歴	リハビリテーション病院にて回復期・療養期リハビリに6年半従事 専門学校にて教務歴2年半						
学期区分	前期	火曜日　4時限		講義室等	201		
	後期	金曜日　1時限		授業形式			

授業のねらい、目標	成績評価の方法
医療の基礎である解剖学についての学び、人体の構成と機能を理解する	受講態度、課題、期末テストで評価
	教科書
授業概要	プロメテウス解剖学エッセンシャルテキスト
	参考書

履修上の注意事項	

授　業　の　計　画

	〈前　学　期〉			〈後　学　期〉		
第1回	解剖学序論	振り返りプリント	第1回	泌尿器系	振り返りプリント
第2回	解剖学序論	振り返りプリント	第2回	泌尿器系	振り返りプリント
第3回	骨格系	振り返りプリント	第3回	泌尿器系	振り返りプリント
第4回	骨格系	振り返りプリント	第4回	内分泌系	振り返りプリント
第5回	筋系	振り返りプリント	第5回	内分泌系	振り返りプリント
第6回	筋系	振り返りプリント	第6回	内分泌系	振り返りプリント
第7回	循環器系	振り返りプリント	第7回	感覚器系	振り返りプリント
第8回	循環器系	振り返りプリント	第8回	感覚器系	振り返りプリント
第9回	循環器系	振り返りプリント	第9回	感覚器系	振り返りプリント
第10回	呼吸器系	振り返りプリント	第10回	神経系	振り返りプリント
第11回	呼吸器系	振り返りプリント	第11回	神経系	振り返りプリント
第12回	呼吸器系	振り返りプリント	第12回	神経系	振り返りプリント
第13回	消化器系	振り返りプリント	第13回	神経系	振り返りプリント
第14回	消化器系	振り返りプリント	第14回	リンパ系	振り返りプリント
第15回	まとめ、補習	振り返りプリント	第15回	まとめ	振り返りプリント

授業科目区分	専門基礎	担当科目	生理学Ⅰ・Ⅱ	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	60		
担当教員	三井 由香			受講学科	言語聴覚士学科		
				学 年	1年		
学期区分	前期	金曜日 2時限		講義室等	201		
	後期	月曜日 2時限		授業形式	講義		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
健康な状態とは，体の状態が，良い状態で一定に保たれている状態である．この恒常性は様々な細胞や，細胞からなる器官が協調して働いて維持される．恒常性が破綻すると疾病を引き起こす． 生理学では，細胞と，細胞からなる様々な器官の働きを学ぶ．またそれらの働きを調節する神経系，内分泌系の仕組みを学び，生きているとはどういうことかを生理学的に考える．	期末試験95%，課題提出5%
授業概要	教科書
1，細胞と，細胞からなる生命維持に重要な，循環，呼吸，消化，排泄などの生理機能を学び，内部環境が維持されていることを理解する． 2，内分泌と神経，筋肉の特徴，神経系，感覚系を学び，神経と内分泌によって運動機能，感覚機能，内臓機能が調節されることを理解する．	「やさしい生理学」 彼末一之 伊能博編集 南江堂
	参考書

履修上の注意事項	分からないところをそのままにせず，調べる，聞きに来るなどして解決してから進んでください．

授 業 の 計 画

〈前 学 期〉		〈後 学 期〉	
第1回	細胞1	第1回	内分泌系1
第2回	細胞2	第2回	内分泌系2
第3回	遺伝子とその発現	第3回	内分泌系3
第4回	血液1	第4回	生殖器系
第5回	血液2	第5回	体温調節
第6回	免疫1	第6回	神経系1
第7回	免疫2	第7回	神経系2
第8回	循環器系1	第8回	骨格筋
第9回	循環器系2	第9回	シナプス伝達
第10回	呼吸器系1	第10回	運動系1
第11回	呼吸器系2	第11回	運動系2
第12回	消化吸収1	第12回	運動系3
第13回	消化吸収2	第13回	感覚系1
第14回	排泄1	第14回	感覚系2
第15回	排泄2	第15回	特殊感覚

授業科目区分	専門基礎	担当科目	病理学	単位数	1	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	市川　理恵			受講学科	言語聴覚士学科		
				学　年	2年		

実務家教員としての経歴
大学院修士課程(2年)、急性期病院、介護老人保健施設、歯科病院、研究機関での非常勤(計2年)
回復期、亜急性期、療養病床、ホスピスを有する病院で常勤勤務(6年)
専門学校常勤教員業務(4年)、精神科病院での非常勤(2年)

学期区分				
	前期	木曜日　1時限	講義室等	202
	後期		授業形式	講義

授業のねらい、目標	成績評価の方法
様々な疾患の基礎となる、疾病機序の知識を身に着け、 各臓器に応用して考えられるようになる。	期末試験で評価。 授業態度や小テスト などを評価に含める。
	教科書
授業概要	標準理学療法・作業療法学　病理学第4版
病気がどのような仕組みで成り立っているのかを紹介する。 脳血管疾患など、言語聴覚士として必要な疾患については各論にも ふれる。	参考書

履修上の注意事項	講義内容は総論が中心となるため、各論については各自教科書を読んで勉強をすすめる。

授　業　の　計　画

〈前　学　期〉		〈後　学　期〉	
第1回	病理学とは	第1回	
第2回	退行性病変	第2回	
第3回	進行性病変	第3回	
第4回	復習小テスト、補足	第4回	
第5回	循環障害	第5回	
第6回	炎症	第6回	
第7回	感染症	第7回	
第8回	腫瘍	第8回	
第9回	復習小テスト、補足	第9回	
第10回	先天異常・奇形	第10回	
第11回	遺伝	第11回	
第12回	免疫	第12回	
第13回	老化	第13回	
第14回	代謝	第14回	
第15回	総復習、補足	第15回	

授業科目区分	専門基礎	担当科目	内科学Ⅰ	単位数	1	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	望月崇司			受講学科	言語聴覚士学科		
				学年	1年		
実務家教員としての経歴	回復期リハビリテーション:5年 急性期リハビリテーション:2年 教員業務:4年						
学期区分	前期	曜日　時限		講義室等	201教室		
	後期	水曜日　2時限		授業形式	講義		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
①人体の臓器で引き起こされる疾患を学ぶ。 ②疾患の概要を知るとともに、専門に活かせる知識を得る。 ③疾患に用いられる評価・投薬についての知識を得る。	筆記試験の成績
	教科書
授業概要	PT・OT基礎から学ぶ内科学ノート　第2版
・内科学についてテキストを用いて学習を進めていく。補足をスライドにて講義を行う。 ・授業の際にテキストのノートを作成していく。	参考書
	なるほど成っとく内科学

履修上の注意事項	教科書に直接書き込みたくない方は、各個人でコピーなどを代用すること。

授業の計画

〈前学期〉		〈後学期〉	
第1回		第1回	呼吸器疾患①
第2回		第2回	呼吸器疾患②
第3回		第3回	循環器疾患①
第4回		第4回	循環器疾患②
第5回		第5回	消化器疾患①
第6回		第6回	消化器疾患②
第7回		第7回	代謝性疾患
第8回		第8回	内分泌疾患
第9回		第9回	泌尿器疾患
第10回		第10回	血液・造血器疾患
第11回		第11回	免疫関連疾患
第12回		第12回	感染性疾患
第13回		第13回	老年期疾患
第14回		第14回	症候学と検査値①
第15回		第15回	症候学と検査値②

シラバス

授業科目区分	専門基礎	担当科目	内科学Ⅱ	単位数	1	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	泉 従道			受講学科	言語聴覚士学科		
				学 年	2年		
学期区分	前期	曜日 時限		講義室等	202教室		
	後期	金曜日 3時限		授業形式	講義		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
言語聴覚臨床に必要な内科学の知識を習得する	筆記試験の成績により判定する
	教科書
授業概要	なるほどなっとく内科学
内科疾患について広く学習する	参考書

履修上の注意事項	

授 業 の 計 画

〈前 学 期〉		〈後 学 期〉	
第1回	背広を着た縄文人	第1回	
第2回	代謝性疾患	第2回	
第3回	内分泌疾患	第3回	
第4回	腎泌尿器疾患	第4回	
第5回	脳神経疾患	第5回	
第6回	脳神経疾患	第6回	
第7回	脳神経疾患	第7回	
第8回	脳神経疾患	第8回	
第9回	血液疾患	第9回	
第10回	貧血	第10回	
第11回	感染症	第11回	
第12回	感染症	第12回	
第13回	感染症	第13回	
第14回	アレルギー、膠原病	第14回	
第15回	復習問題	第15回	

授業科目区分	専門基礎	担当科目	小児科学	単位数	1	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	杉山 裕			受講学科	言語聴覚士学科		
				学 年	2年		
学期区分	前期	曜日 時限		講義室等	202		
	後期	水曜日 3-4時限		授業形式	講義		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
小児は特有の身体機能を有することについて学び、 先天性異常を含めた小児の疾患について学ぶ。	出席状況、試験などを総合して評価します。
	教科書
授業概要	『標準理学療法学・作業療法基礎 小児科学』 医学書院
	参考書

履修上の注意事項	

授 業 の 計 画

〈前 学 期〉		〈後 学 期〉	
第1回		第1回	小児科概論
第2回		第2回	診断と治療の概要
第3回		第3回	新生児・未熟児疾患
第4回		第4回	先天異常と遺伝病
第5回		第5回	神経・筋・骨格系疾患
第6回		第6回	神経・筋・骨格系疾患
第7回		第7回	神経・筋・骨格系疾患
第8回		第8回	循環器疾患
第9回		第9回	呼吸器疾患
第10回		第10回	感染症
第11回		第11回	消化器疾患
第12回		第12回	内分泌・代謝疾患、血液疾患
第13回		第13回	血液疾患、免疫・アレルギー疾患、膠原病
第14回		第14回	腎・泌尿器系、生殖器疾患、腫瘍性疾患
第15回		第15回	心身症・神経症、重症心身障害児、眼科・耳鼻咽喉科疾患

授業科目区分	専門基礎	担当科目	精神医学	単位数	1	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	富井　浩子			受講学科	言語聴覚士学科		
				学　年	3年		
実務家教員としての経歴							
学期区分	前期	曜日　時限		講義室等	402教室		
	後期	火曜日　2時限		授業形式	講義		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
主な精神疾患について理解し、その特徴を知る。 DMS-5の概要を知る。	学期末試験 学習態度 課題評価
	教科書
授業概要	臨床につながる精神医学
1.取り上げる精神疾患について、理解する。 2特徴的な症状とその概要を理解する。	参考書 言語聴覚士テキスト第3版

履修上の注意事項	

授　業　の　計　画

〈前　学　期〉		〈後　学　期〉	
第1回		第1回	精神医学の方法
第2回		第2回	精神医学の分類①
第3回		第3回	精神医学の分類②
第4回		第4回	精神科症候学①
第5回		第5回	精神科症候学②
第6回		第6回	器質性精神障害
第7回		第7回	精神作用物質関連障害
第8回		第8回	統合失調症
第9回		第9回	気分（感情）障害
第10回		第10回	神経症性障害
第11回		第11回	パーソナリティ障害
第12回		第12回	摂食障害、睡眠障害
第13回		第13回	性同一性障害
第14回		第14回	ライフサイクル
第15回		第15回	メンタルヘルス

シラバス

授業科目区分	専門基礎	担当科目	リハビリテーション医学	単位数	1	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	泉 従道			受講学科	言語聴覚士学科		
				学 年	2年		
学期区分	前期	曜日 時限		講義室等	202教室		
	後期	金曜日 4時限		授業形式	講義		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
言語聴覚臨床に必要なリハビリテーション医学の知識を習得する	筆記試験の成績により判定する
	教科書
授業概要	見て知るリハビリテーション医学
リハビリテーションの対象となる障害について広く学習する	参考書

履修上の注意事項	

授 業 の 計 画

〈前 学 期〉		〈後 学 期〉	
第1回	リハビリテーション医学概論	第1回	
第2回	リハビリテーション医学の対象となる障害	第2回	
第3回	摂食嚥下障害に対するリハビリテーション	第3回	
第4回	脳卒中のリハビリテーション	第4回	
第5回	神経筋疾患のリハビリテーション	第5回	
第6回	ニューロリハビリテーション	第6回	
第7回	悪性腫瘍のリハビリテーション	第7回	
第8回	廃用症候群	第8回	
第9回	COPDのリハビリテーション	第9回	
第10回	心疾患のリハビリテーション	第10回	
第11回	精神発達障害に対するリハビリテーション	第11回	
第12回	脳性麻痺・二分脊椎・運動器疾患に対するリハビリテーション	第12回	
第13回	パーキンソン病・神経筋疾患	第13回	
第14回	脊髄障害	第14回	
第15回	復習問題	第15回	

シラバス

授業科目区分	専門基礎	担当科目	臨床神経学	単位数	1	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	泉 従道			受講学科	言語聴覚士学科		
				学 年	3年		
学期区分	前期	曜日 時限		講義室等	402教室		
	後期	金曜日 3時限		授業形式	講義／演習		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
①脳血管障害の発症メカニズムや症候、治療を理解する ②神経変性疾患のメカニズム、症候を理解する ③神経系の病態を理解し、言語聴覚障害との関係性を学ぶ	筆記試験の成績により判定する
	教科書
授業概要	神経内科学テキスト第4版
・脳血管障害や神経変性疾患の種類、メカニズムや症候を教科書ベースのスライドを用いて解説していく。 ・画像診断ではグループワークと演習を実施する	参考書
	病気がみえる 脳・神経

履修上の注意事項	

授業の計画

〈前学期〉		〈後学期〉	
第1回		第1回	脳血管障害の病態と症候、治療①
第2回		第2回	脳血管障害の病態と症候、治療②
第3回		第3回	脳血管障害の画像診断 評価と演習①
第4回		第4回	脳血管障害の画像診断 評価と演習②
第5回		第5回	認知症性疾患
第6回		第6回	パーキンソン症候群①
第7回		第7回	パーキンソン症候群②、運動過多性疾患
第8回		第8回	脊髄小脳変性症
第9回		第9回	運動ニューロン性疾患（ALS）
第10回		第10回	評価と演習
第11回		第11回	↓
第12回		第12回	
第13回		第13回	神経筋接合部疾患
第14回		第14回	ニューロパチー
第15回		第15回	脱髄性疾患

授業科目区分	専門基礎	担当科目	耳鼻咽喉科学	単位数	1	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	飯島 正道			受講学科	言語聴覚士学科		
				学 年	2年		
学期区分	前期	曜日 時限		講義室等	202		
	後期	火曜日 3時限		授業形式	講義		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
	教科書
授業概要	言語聴覚士のための基礎知識 耳鼻咽喉科学
	参考書

履修上の注意事項	

授 業 の 計 画

〈前 学 期〉		〈後 学 期〉	
第1回		第1回	耳科学 中耳・内耳解剖復習 聴力検査復習
第2回		第2回	耳科学 中耳疾患各論 人工中耳・内耳 最近の動向
第3回		第3回	耳科学 平衡総論、各論 内耳疾患
第4回		第4回	耳科学 顔面神経機能、障害 小児難聴 遺伝、先天性
第5回		第5回	耳科学 16回国試問題を通して復習(耳科分野)
第6回		第6回	鼻科学 解剖 鼻アレルギー 生理
第7回		第7回	鼻科学 急性副鼻腔炎 NK細胞腫
第8回		第8回	顔面外傷 咽頭総論、解剖
第9回		第9回	咽頭疾患、各論 唾液腺疾患、各論
第10回		第10回	構音障害
第11回		第11回	喉頭科学 総論
第12回		第12回	喉頭科学 各論 音声外科手術
第13回		第13回	喉頭科学 カニューレ各種、気切と適応、気道異物
第14回		第14回	嚥下障害基礎
第15回		第15回	嚥下障害 直接訓練、間接訓練 他

授業科目区分	専門基礎	担当科目	形成外科学	単位数	1	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	市川　理恵			受講学科	言語聴覚士学科		
				学　年	2年		
実務家教員としての経歴	大学院修士課程(2年)、急性期病院、介護老人保健施設、歯科病院、研究機関での非常勤(計2年) 回復期、亜急性期、療養病床、ホスピスを有する病院で常勤勤務(6年) 専門学校常勤教員業務(4年)、精神科病院での非常勤(2年)						
学期区分	前期	水曜日　1限		講義室等	202		
	後期			授業形式	講義		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
STの言語臨床において必要となる形成外科の知識を習得する。	学期末に試験を行います。
授業概要 国家試験の過去問にも触れながら口唇口蓋裂や褥瘡など STが臨床で関わる可能性の高い疾患に時間を割いて説明する。	教科書 標準形成外科　医学書院 参考書

履修上の注意事項	

授　業　の　計　画

〈前　学　期〉		〈後　学　期〉	
第1回		第1回	オリエンテーション・総論
第2回		第2回	正常な皮膚の構造・機能
第3回		第3回	創傷の治癒過程
第4回		第4回	創傷のケア
第5回		第5回	瘢痕とケロイド
第6回		第6回	褥瘡
第7回		第7回	熱傷
第8回		第8回	皮膚移植について
第9回		第9回	復習
第10回		第10回	口唇口蓋裂の基礎
第11回		第11回	口唇口蓋裂の手術
第12回		第12回	口唇口蓋裂を合併しやすい疾患
第13回		第13回	復習
第14回		第14回	形成外科領域の国家試験過去問
第15回		第15回	総まとめ

授業科目区分	専門基礎	担当科目	臨床歯科医学	単位数	1	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	宮下　貞夫			受講学科	言語聴覚士学科		
				学　年	1年		
学期区分	前期	曜日　時限		講義室等	201		
	後期	木曜日　1時限		授業形式	講義		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
	教科書
授業概要	言語聴覚士のための臨床歯科医学・口腔外科学 医歯薬出版
	参考書

履修上の注意事項	

授　業　の　計　画

〈前　学　期〉		〈後　学　期〉	
第1回		第1回	これからの授業について 医療の原点
第2回		第2回	医療の原点　健康
第3回		第3回	健康　朝食
第4回		第4回	タバコ　より良い医療人
第5回		第5回	インフォームドコンセント　ヒポクラテスの誓い 基礎医学
第6回		第6回	歯科臨床科目 教科書　序章p2～4
第7回		第7回	教科書p6,7 歯式、歯の構造
第8回		第8回	教科書p7～12 口腔、顎、顔面の構造
第9回		第9回	教科書p10～14 弄舌癖、餅がのどにつかえた時
第10回		第10回	教科書p14～22 顎関節、鼻腔
第11回		第11回	教科書p66 齲蝕、原因、予防、進行
第12回		第12回	外傷 教科書p66～72齲蝕の治療法
第13回		第13回	教科書p73～78　歯周組織、歯周病、 バイオフィルム、プラークコントロール
第14回		第14回	歯周病、唾液、ドライマウス
第15回		第15回	智歯周囲炎、唇顎口蓋裂、口腔ケア、補綴

授業科目区分	専門基礎	担当科目	臨床歯科医学 口腔外科学	単位数	1	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	横林 敏夫			受講学科	言語聴覚士学科		
				学 年	3年		

実務家教員としての経歴		
	昭和47年6月～昭和48年4月	新潟大学歯学部 口腔外科 医員
	昭和48年5月～昭和57年2月	新潟大学歯学部 第1口腔外科 助手
	昭和57年3月～昭和58年9月	新潟大学歯学部 第1口腔外科 講師
	昭和58年10月～平成26年3月	日本赤十字社 長野赤十字病院 歯科口腔外科 部長
	昭和58年10月	歯学博士
	平成 9 年10月	日本口腔外科学会 認定医
	平成11年10月	日本口腔外科学会 指導医

学期区分				
	前期		講義室等	歯科衛生士学科校舎
	後期	月曜日 3限	授業形式	講義

授業のねらい、目標	成績評価の方法
口腔外科治療の、疾患、症状、治療法について理解する。	定期試験
授業概要	教科書
	最新歯科衛生士教本 口腔外科・歯科麻酔 医歯薬出版株式会社
	参考書

履修上の注意事項	

授 業 の 計 画

〈後 期〉

第1回	口腔領域の発育異常と奇形・変形	
第2回	口腔領域の発育異常と奇形・変形	
第3回	口腔領域の損傷	
第4回	口腔粘膜疾患	
第5回	口腔領域の炎症	
第6回	口腔領域の嚢胞	
第7回	口腔領域の嚢胞、口腔領域の腫瘍	
第8回	口腔領域の腫瘍	
第9回	口腔領域の腫瘍	
第10回	口腔外科の小手術(歯科衛生士)	1号館 2階 基礎実習室
第11回	口腔外科の小手術(歯科衛生士)	1号館 2階 基礎実習室
第12回	顎関節疾患	
第13回	唾液腺疾患	
第14回	口腔領域の神経疾患	
第15回	血液疾患	

授業科目区分	専門基礎	担当科目	呼吸発声発語系の構造、機能、病態	単位数	1	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	市川　理恵			受講学科	言語聴覚士学科		
				学　年	2年		
実務家教員としての経歴	大学院修士課程(2年)、急性期病院、介護老人保健施設、歯科病院、研究機関での非常勤(計2年) 回復期、亜急性期、療養病床、ホスピスを有する病院で常勤勤務(6年) 専門学校常勤教員業務(4年)、精神科病院での非常勤(2年)						
学期区分	前期			講義室等	202		
	後期	金曜日　2限		授業形式	講義		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
構音障害や音声障害などを学ぶ上で必要な呼吸発声発語器官についての知識を習得する。	学期末試験を中心に授業態度なども含める
	教科書
授業概要	ディサースリアの基礎と臨床　第1巻理論編
肺から出た呼気が音声言語になるまでの過程を解剖、生理学を軸に学び、その上で病態についても学習する。	参考書

履修上の注意事項	

授業の計画

〈前学期〉		〈後学期〉	
第1回	オリエンテーション	第1回	
第2回	肺	第2回	
第3回	胸郭、呼吸筋	第3回	
第4回	呼吸の生理	第4回	
第5回	喉頭	第5回	
第6回	発声の生理	第6回	
第7回	発声に関わる小テストと補足	第7回	
第8回	軟口蓋	第8回	
第9回	顎、口唇	第9回	
第10回	舌	第10回	
第11回	発語の生理	第11回	
第12回	発語に関わる小テストと補足	第12回	
第13回	呼吸器疾患	第13回	
第14回	呼吸器疾患	第14回	
第15回	総復習	第15回	

授業科目区分	専門基礎	担当科目	聴覚系の構造・機能・病態	単位数	1	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	富井　浩子			受講学科	言語聴覚士学科		
				学　年	1年		
実務家教員としての経歴							
学期区分	前期	月曜日　2時限		講義室等	201教室		
	後期	曜日　　時限		授業形式	講義		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
聴覚系の基礎的な骨組みを知り、聴覚領域の解剖・生理・疾患について理解する。	学期末試験 学習態度 課題評価
	教科書
授業概要	聴覚系耳科学　考古堂
1.聴覚器官の解剖について理解する。 2.音を伝達して知覚する流れについて理解する。 3.聴覚障害の概要について理解する。	参考書 言語聴覚士テキスト第3版

履修上の注意事項	

授　業　の　計　画

〈前　学　期〉			〈後　学　期〉	
第1回	耳について考える		第1回	
第2回	聴覚器の構造	①外耳	第2回	
第3回	〃	②外耳	第3回	
第4回	〃	③中耳	第4回	
第5回	〃	④中耳	第5回	
第6回	〃	⑤内耳	第6回	
第7回	〃	⑥内耳	第7回	
第8回	〃	⑦聴神経	第8回	
第9回	〃	⑧聴神経	第9回	
第10回	聴覚器の構造	①集音機構・伝音機構	第10回	
第11回	〃	②感音機構	第11回	
第12回	〃	③聴覚伝導路	第12回	
第13回	聴覚器官の病態	①伝音障害	第13回	
第14回	〃	②感音障害	第14回	
第15回	まとめ		第15回	

授業科目区分	専門基礎	担当科目	神経系の構造、機能、病態	単位数	1	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	望月崇司			受講学科	言語聴覚士学科		
				学年	2年		

実務家教員としての経歴
回復期リハビリテーション:5年
急性期リハビリテーション:2年
教員業務:4年

学期区分			講義室等	202教室
	前期	木曜日　2時限		
	後期	曜日　時限	授業形式	講義

授業のねらい、目標	成績評価の方法
①大脳や脳幹、小脳、基底核などの構造を理解する ②大脳の機能を理解し、病態理解につなげることができる ③broadmanの脳地図を理解し、神経心理学に対する理解が進む ④神経系と運動機能、神経心理学的機能のつながりについて理解する	筆記試験の成績により判定する
	教科書
授業概要	①ディサースリアの基礎と臨床(第1巻) ②言語脳アトラス一高次脳機能を学ぶ人のために一
・神経系の構造・機能についてスライドで講義を行っていく ・時折、調べ学習を行い発表する機会を設ける ・計画が前後する可能性がありますので、都度説明する。	参考書
	病気がみえる　脳・神経 絵で見る脳と神経

履修上の注意事項	

授業の計画

〈前学期〉		〈後学期〉	
第1回	神経系のイントロダクション(スライド①)	第1回	
第2回	ニューロンと神経伝達物質(スライド②)	第2回	
第3回	大脳の肉眼的構造(スライド③)	第3回	
第4回	broadmanの脳地図①ー機能と障害ー(スライド④⑤)	第4回	
第5回	broadmanの脳地図②ー機能と障害ー(スライド⑥)	第5回	
第6回	大脳の血管系(スライド⑦)	第6回	
第7回	脳幹の機能と病態(スライド⑧)	第7回	
第8回	脳神経系の機能と病態(スライド⑨)	第8回	
第9回	視床の機能と病態(スライド⑫)	第9回	
第10回	大脳基底核・大脳辺縁系の機能と病態(スライド⑪⑬)	第10回	
第11回	小脳の機能と病態(スライド⑩)	第11回	
第12回	言語と脳機能①	第12回	
第13回	言語と脳機能②	第13回	
第14回	言語と脳機能③	第14回	
第15回	言語と脳機能④	第15回	

授業科目区分	専門基礎	担当科目	認知心理学	単位数	1	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	中村　和男			受講学科	言語聴覚士学科		
				学　年	2年		
実務家教員としての経歴	回復期リハビリテーション　2年 介護福祉施設　3年 教員業務　3年						
学期区分	前期	金曜日　2時限		講義室等	202		
	後期	曜日　時限		授業形式	講義		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
知覚の仕組みを理解し、その先にある認知の働きについて知る。 思考に関与する認知能力に関連する事項について知る。	小テスト、学期末試験により評価
	教科書
授業概要	認知心理学　道又爾　有斐閣
知覚、記憶、思考のメカニズムを理解する 認知心理学の基本的用語を理解する 国家試験出題箇所については適宜、ドリル・小テストにより記憶の定着を図る	参考書

履修上の注意事項	

授業の計画

〈前学期〉		〈後学期〉	
第1回	認知心理学とは	第1回	
第2回	知覚（知覚理論・空間知覚）	第2回	
第3回	知覚（奥行・構造化）	第3回	
第4回	知覚（高次の知覚）	第4回	
第5回	注意	第5回	
第6回	表象・概念形成	第6回	
第7回	スキーマ	第7回	
第8回	記憶の基礎	第8回	
第9回	記憶（作動記憶・潜在記憶）	第9回	
第10回	記憶（記憶の種類）	第10回	
第11回	心とことば	第11回	
第12回	思考（問題解決）	第12回	
第13回	思考（推論）	第13回	
第14回	思考（意思決定）	第14回	
第15回	まとめ	第15回	

授業科目区分	専門基礎	担当科目	学習心理学	単位数	1	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	中村 和男			受講学科	言語聴覚士学科		
				学 年	1年		
実務家教員としての経歴	回復期リハビリテーション 2年 介護福祉施設 3年 教員業務 3年						
学期区分	前期	金曜日 4時限		講義室等	201		
	後期	曜日 時限		授業形式	講義		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
言語聴覚士の臨床上必要となる学習心理を理解し、訓練構成、臨床で使える知識を持つ	小テスト、学期末試験により評価
	教科書
授業概要	キーワードコレクション 心理学
心理学の概要、学習に関連する基本的な知識を習得する 国家試験出題箇所については適宜、ドリル・小テストにより記憶の定着を図る	参考書

履修上の注意事項	

授業の計画

〈前学期〉		〈後学期〉	
第1回	心理学とは	第1回	
第2回	行動と認知の学習・学習とは	第2回	
第3回	古典的条件づけ1 基礎	第3回	
第4回	古典的条件づけ2 行動の獲得	第4回	
第5回	オペラント条件付け1 基礎	第5回	
第6回	オペラント条件付け2 行動の獲得	第6回	
第7回	オペラント条件付け3 汎化と弁別	第7回	
第8回	技能学習1 技能の上達	第8回	
第9回	技能学習2 技能の転移	第9回	
第10回	社会的学習	第10回	
第11回	動機づけ	第11回	
第12回	要求水準	第12回	
第13回	記憶の過程と区分	第13回	
第14回	記憶と忘却	第14回	
第15回	意味記憶	第15回	

授業科目区分	専門分野	担当科目	臨床心理学	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	60		
担当教員	渋谷　純子			受講学科	言語聴覚士学科		
				学　年	2年		
学期区分	前期	月曜日　2時限		講義室等	202		
	後期	月曜日　2時限		授業形式			

授業のねらい、目標	成績評価の方法
1. 臨床心理学の歴史、各論を理解する。 2. 臨床査定の流れや各論との関係を理解する。 3. 各心理療法の概要や流れ、各論との関連を理解する。	出席日数、授業態度、提出物、期末試験を総合して評価する。
	教科書
授業概要	臨床心理学概説　北樹出版 言語聴覚士のための心理学　医歯薬出版
臨床心理学の歴史、各論、臨床査定の流れ、心理療法の概要や流れについて理解する。	参考書

履修上の注意事項	

授業の計画

〈前学期〉		〈後学期〉	
第1回	臨床心理学について（導入）	第1回	精神分析療法①
第2回	問題行動	第2回	精神分析療法②　遊戯療法
第3回	人格・パーソナリティ①	第3回	行動療法①
第4回	人格・パーソナリティ②	第4回	行動療法②
第5回	人格・パーソナリティ③　異常心理	第5回	行動療法③
第6回	臨床査定の流れ	第6回	来談者中心療法①
第7回	査定面接①	第7回	来談者中心療法②
第8回	査定面接②	第8回	来談者中心療法③
第9回	行動観察①	第9回	家族療法①
第10回	行動観察②	第10回	家族療法②　認知療法
第11回	心理検査①	第11回	地域臨床①
第12回	心理検査②	第12回	地域臨床②
第13回	その他	第13回	その他
第14回	まとめ①	第14回	まとめ①
第15回	まとめ②	第15回	まとめ②

授業科目区分	専門基礎	担当科目	心理測定法	単位数	1	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	万年康男			受講学科	言語聴覚士学科		
				学年	3年		
実務家教員としての経歴	小学校で「ことばの教室」(通級指導) 20年 特別支援学校で教育相談(発達障害等巡回相談) 16年 大学院で聴覚言語障害臨床研究 2年 本校教員兼務(外部講師)15年						
学期区分	前期			講義室等	基礎実習室		
	後期	金曜日 1時限		授業形式	講義/演習		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
心理測定法の基礎知識を身に付け、各測定法の概要を理解する。	①授業態度 ②小テスト ③筆記試験 以上を総合して得点化して評価する
	教科書
授業概要 WAIS検査等の演習を通して被検者側からの理解を深めます。国試レベルの知識学力も得られるよう、心理統計を含め、小テストを兼ねた配布資料で補います。	言語聴覚士テキスト
	参考書
	配布資料

履修上の注意事項	

授業の計画

〈前学期：〉		＜後学期：心理測定法 ＞	
第1回		第1回	心理測定法・アセスメント概要
第2回		第2回	心理統計
第3回		第3回	検査法
第4回		第4回	WAIS－Ⅳ演習①実施法
第5回		第5回	WAIS－Ⅳ演習②実施法
第6回		第6回	WAIS－Ⅳ演習③実施法
第7回		第7回	WAIS－Ⅳ演習④実施法
第8回		第8回	WAIS－Ⅳ演習⑤採点・結果処理
第9回		第9回	WAIS－Ⅳ演習⑥分析・解釈
第10回		第10回	WAIS－Ⅳ演習⑦レポート作成
第11回		第11回	WAIS－Ⅳ演習⑧支援方法検討
第12回		第12回	他の検査法 体験
第13回		第13回	他の心理測定法 体験
第14回		第14回	小テスト
第15回		第15回	まとめ

授業科目区分	専門	担当科目	生涯発達心理学	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	60		
担当教員	渋谷　純子			受講学科	言語聴覚士学科		
				学　年	3年		
学期区分	前期	月曜日　4時限		講義室等	402		
	後期	月曜日　4時限		授業形式			

授業のねらい、目標	成績評価の方法
1. 各年代の発達の段階や概要を理解する 2. 各障害論との関連を理解する 3. 患児・患者・キーパーソンそれぞれの関わり方を考える	出席日数、授業態度、提出物、期末試験を総合して評価する。
	教科書
授業概要	・生涯人間発達学　三輪書店 ・言語聴覚士のための心理学　医歯薬出版
発生から老年期、死までの発達の段階や概要および各発達理論を学び、各障害論との関連を理解する。	参考書

履修上の注意事項	後学期は外部実習期間によって予定や内容が変更される場合あり

授業の計画

〈前学期〉		〈後学期〉	
第1回	生涯発達心理学について(導入)	第1回	学童期①
第2回	研究方法など	第2回	学童期②
第3回	発達理論①	第3回	青年期①
第4回	発達理論②	第4回	青年期②
第5回	発達理論③	第5回	成人期①
第6回	胎児期①	第6回	成人期①
第7回	胎児期②	第7回	中年期①
第8回	乳児期①	第8回	中年期②
第9回	乳児期②	第9回	老年期①
第10回	幼児期①	第10回	老年期②
第11回	幼児期②	第11回	死について
第12回	幼児期③	第12回	その他
第13回	幼児期④	第13回	その他
第14回	まとめ①	第14回	まとめ①
第15回	まとめ②	第15回	まとめ②

授業科目区分	専門基礎	担当科目	言語学Ⅰ・Ⅱ	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	60		
担当教員	西條一彦			受講学科	言語聴覚士学科		
				学年	1年		
学期区分	前期	言語学Ⅰ　水曜日　3時限		講義室等	201		
	後期	言語学Ⅱ　水曜日　3時限		授業形式	講義		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
前期：言語学の専門用語が正しく理解でき、日本語についての客観的な分析力とその構造が把握できることを目標とします。 後期：前期の残りに加え、言語脳科学の最新の知識を学びます。	各期末試験での評価。 出席や授業態度、レポートなども評価に含める。
	教科書
授業概要	前期：『言語学第2版』　東京大学出版会 後期：チョムスキーと言語脳科学　集英社
テキストに沿って，講義を中心に進めます。	参考書
	言語の脳科学　中公新書

履修上の注意事項	教科書に眼を通し授業に臨むこと。 具体例を考える習慣を付けること。

授業の計画

〈前学期〉		〈後学期〉	
第1回	イントロダクション　言語の研究　ソシュールの功績	第1回	前期の総復習
第2回	言語の研究　生成文法	第2回	言語の多様性と類型
第3回	語の構造　形態素　語形変化	第3回	言語の変化①
第4回	語の構造　異形態　派生語と複合語	第4回	言語の変化②
第5回	まとめ①（言語の研究、語の構造）	第5回	まとめ②（言語の多様性と類型、言語の変化）
第6回	文の構造　統語論	第6回	音韻論①
第7回	文の構造　構造分析	第7回	音韻論②
第8回	まとめ②（文の構造）	第8回	音韻論③
第9回	語の意味　意義素　意味関係	第9回	まとめ③（音韻論）
第10回	語の意味　範列的意味関係　連辞的意味関係	第10回	生物言語学とは
第11回	まとめ③（語の意味）	第11回	チョムスキー理論の革新性
第12回	文の意味　アスペクトと時制、動作態とモダリティ	第12回	「統辞構造論」を読む
第13回	文の意味　状況と意味　主題と焦点　会話の含意	第13回	脳科学で実証する生成文法の企て
第14回	まとめ①（文の意味）	第14回	言語の自然法則を求めて
第15回	模擬試験	第15回	模擬試験

授業科目区分	専門基礎	担当科目	音声学 Ⅰ,Ⅱ	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	60		
担当教員	富井 浩子			受講学科	言語聴覚士学科		
				学 年	1年		
実務家教員としての経歴							

学期区分				
	前期	月曜日 4時限	講義室等	201教室
	後期	月曜日 4時限	授業形式	講義

授業のねらい、目標	成績評価の方法
音声学の扱う基礎的な骨組みを知り、人の声の音声学的な捉え方、扱い方を学ぶ。	
	教科書
授業概要	音声学・言語学 第2版
1.音声のメカニズムについて理解する。 2.音声学的表記の意味を知り、記号を使えるようになる。 3.日本語の特徴について考える。	参考書 言語聴覚士テキスト第3版

履修上の注意事項	

授業の計画

〈前学期〉			〈後学期〉		
第1回	音声学とは		第1回	前期の復習	
第2回	発声発語器官①	発声器官	第2回	超分節的要素	アクセント
第3回	〃	発語器官	第3回		イントネーション
第4回	〃	まとめ	第4回		リズム
第5回	音声記号と分節音	音素、音声	第5回	音声学からみた日本語	
第6回	〃	IPA	第6回	日本語音声学	モーラ
第7回	〃	子音の分類	第7回		音節
第8回	〃	子音の調音方法	第8回		母音
第9回	〃	〃	第9回		子音
第10回	〃	副次調音	第10回		〃
第11回	〃	母音の分類	第11回		まとめ
第12回	〃	IPA 小テスト	第12回		アクセント
第13回	〃	調音結合	第13回		〃
第14回	〃	相補分布	第14回	音響音声学	
第15回	まとめ		第15回	まとめ	

授業科目区分	専門基礎	担当科目	音響学 I	単位数	1	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	富井 浩子			受講学科	言語聴覚士学科		
				学 年	1年		
実務家教員としての経歴							
学期区分	前期	金曜日 1時限		講義室等	201教室		
	後期	曜日 時限		授業形式	講義		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
音響の基礎的を知り、音声と聴覚の関係について理解する。	学期末試験 学習態度 課題評価
	教科書
授業概要	音声学・言語学 第2版
1.音について考える。 2音響の基礎を理解する 3.音響分析の概要を知る。	参考書 音響学を学ぶ前に読む本

履修上の注意事項	

授 業 の 計 画

〈前 学 期〉		〈後 学 期〉	
第1回	音の物理と心理	第1回	
第2回	周波数と振幅、位相	第2回	
第3回	純音と複合音	第3回	
第4回	周期音、非周期音、過渡音	第4回	
第5回	デシベル	第5回	
第6回	時間波形と周波数スペクトル	第6回	
第7回	音波の伝播、反射と干渉	第7回	
第8回	音響管の共鳴	第8回	
第9回	音声生成の音響理論、有声音源の特性	第9回	
第10回	ソースフィルタ理論理論、アンチフォルマント	第10回	
第11回	無声子音の周波数特性	第11回	
第12回	サウンドスペクトログラム	第12回	
第13回	言語音の音響的特徴、分節的特徴	第13回	
第14回	超分節的特徴	第14回	
第15回	まとめ	第15回	

授業科目区分	専門基礎	担当科目	音響学	単位数	1	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	坂本真一			受講学科	言語聴覚士学科		
				学年	1年		
学期区分	前期	曜日　時限		講義室等	201		
	後期	金曜日　3.4時限		授業形式			

授業のねらい、目標	成績評価の方法
音響学の基本的な用語の意味を理解する。 音響学で頻繁に使われる、音圧レベルや周波数の意味を理解し、 音が空気中を伝搬する様子のイメージを、個々の学生が持てるようにする。 周波数スペクトル分析の基本スキルを身に着ける。 音声生成のメカニズムを理解する。	試験
	教科書
授業概要	音響学を学ぶ前に読む本（コロナ社）
音響学の基礎的内容に関する講義と、録音及び周波数スペクトル分析をPCを用いて実習する。	参考書

履修上の注意事項	教科書を必ず持参のこと。 初回の講義は最も重要なので、万難を排して出席のこと。

授業の計画

〈前学期〉		〈後学期〉	
第1回		第1回	音響基礎の講義（音響学1）
第2回		第2回	音響基礎の講義（音響学1）
第3回		第3回	音の収録とスペクトログラム実習
第4回		第4回	音の収録とスペクトログラム実習
第5回		第5回	音響基礎、聴覚の講義
第6回		第6回	ここまでの復習と講義
第7回		第7回	講義（共鳴）
第8回		第8回	講義（共鳴）
第9回		第9回	音声学基礎の講義（音声の生成）
第10回		第10回	音声学基礎の講義（音声の生成）
第11回		第11回	音声分析実習
第12回		第12回	音声分析実習
第13回		第13回	ディジタルの仕組み
第14回		第14回	瞬時値と実効値，マスキングについて
第15回		第15回	

授業科目区分	専門分野	担当科目	言語発達学	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	60		
担当教員	渋谷　純子			受講学科	言語聴覚士学科		
				学　年	1年		
実務家教員としての経歴							
学期区分	前期	月曜日　3時限		講義室等	201		
	後期	月曜日　3時限		授業形式			

授業のねらい、目標	成績評価の方法
1. 言語発達学の歴史を理解する 2、言語発達学の各論と、その関係性を理解する	・出席日数、授業態度、提出物、期末試験を総合して評価する。
	教科書
授業概要	よくわかる言語発達　ミネルヴァ書房
言語発達についての歴史や各論を学び、言語発達障害学を理解するための基礎知識を身に着ける。	参考書

履修上の注意事項	

授　業　の　計　画

〈前　学　期〉		〈後　学　期〉	
第1回	言語発達について(導入)	第1回	形態面の発達①
第2回	前言語期①	第2回	形態面の発達②
第3回	前言語期②	第3回	語用論の発達①
第4回	共同注意	第4回	語用論の発達②
第5回	養育者の働きかけの特徴と役割①	第5回	談話構造の発達①
第6回	養育者の働きかけの特徴と役割②	第6回	談話構造の発達②
第7回	音韻の発達①	第7回	読み書きの発達①
第8回	音韻の発達②	第8回	読み書きの発達②
第9回	語彙の発達①	第9回	理論の概要①
第10回	語彙の発達②	第10回	理論の概要②
第11回	統語の発達①	第11回	理論の概要③
第12回	統語の発達②	第12回	理論の概要④
第13回	その他	第13回	その他
第14回	まとめ①	第14回	まとめ①
第15回	まとめ②	第15回	まとめ②

授業科目区分	専門基礎	担当科目	社会保障制度／関係法規Ⅰ	単位数	1	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	西條一彦			受講学科	言語聴覚士学科		
				学年	2年		
学期区分	前期	曜日　時限		講義室等	202		
	後期	金曜日　1時限		授業形式	講義		

授業のねらい、目標

「人間らしい社会」の有り様を追い、医療従事者として社会保障制度の一端を担う言語聴覚士の資質を養う。

1. 日本国憲法で保障された「人間らしい社会」の有り様がどのように制度化されているかを学ぶ
2. 年々改正される社会保障政策の基本的考え方を理解する

授業概要

テキストに沿って，講義を中心に進めます。

成績評価の方法

期末試験で評価。
出席や授業態度、レポートなども評価に含める。

教科書

「よくわかる社会保障」第5版
坂口正之・岡田忠克編 ミネルヴァ書房

参考書

履修上の注意事項	教科書に眼を通し授業に臨むこと。

授業の計画

	〈前学期〉		〈後学期〉
第1回		第1回	イントロダクション　社会福祉の基礎理論①
第2回		第2回	社会福祉の基礎理論②
第3回		第3回	社会保障をとりまく状況①
第4回		第4回	社会保障を取り巻く状況②
第5回		第5回	社会保障の歴史
第6回		第6回	社会保障の実施体制
第7回		第7回	年金保険制度
第8回		第8回	医療保険制度①
第9回		第9回	医療保険制度②
第10回		第10回	介護保険制度①
第11回		第11回	介護保険制度②
第12回		第12回	社会福祉制度
第13回		第13回	社会福祉の技法
第14回		第14回	労働保険制度　民間保険制度
第15回		第15回	模擬試験

授業科目区分	専門基礎	担当科目	社会保障制度／関係法規Ⅱ	単位数	1	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	西條一彦			受講学科	言語聴覚士学科		
				学年	4年		
学期区分	前期	金曜日　1時限		講義室等	401		
	後期	曜日　時限		授業形式	講義		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
社会保障／関連法規Ⅰを受け、言語聴覚士が拘わる臨床現場の現状と課題について理解し、その解決の方向性について考察する。また隣接する専門職種の役割について理解し、今後の職種間連携に役立てる。	出席状況、小レポート、レポートで評価します。
	教科書
授業概要	なし
スライドを用いて、講義を中心に進めます。	参考書

履修上の注意事項	新聞などの報道記事に注目し、理解を深めること。

授業の計画

〈前学期〉		〈後学期〉	
第1回	イントロダクション 社会福祉における相談援助技術	第1回	
第2回	医療関係職の身分法	第2回	
第3回	言語聴覚士法の成立経過とその特徴	第3回	
第4回	診療報酬に見られるリハ専門職への期待①	第4回	
第5回	診療報酬に見られるリハ専門職への期待②	第5回	
第6回	介護報酬とリハ専門職の役割	第6回	
第7回	障害福祉と障害認定制度	第7回	
第8回	障害者総合支援法	第8回	
第9回	指定療養介護事業所の現状と課題	第9回	
第10回	これからの維持期リハビリテーション	第10回	
第11回	データで見るリハビリテーションの現状	第11回	
第12回	地域包括ケアシステムと言語聴覚士	第12回	
第13回	新しいリハビリテーションが始まる	第13回	
第14回	言語聴覚士の開業について考える	第14回	
第15回	個人情報保護法　まとめ	第15回	

授業科目区分	専門基礎	担当科目	リハビリテーション概論	単位数	1	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	西條一彦			受講学科	言語聴覚士学科		
				学年	1年		
学期区分	前期	木曜日 2 時限		講義室等	201		
	後期	曜日 時限		授業形式	講義		

授業のねらい、目標

リハビリテーションの基本理念と基礎知識・技術、障害の心理的・社会的評価を学び、 セラピストとしての基盤を整える。

1. 健康や障害の概念を学び、ICIDHとICFの違いを理解する
2. 患者の心理を理解し、コメディカルの基本姿勢を学ぶ
3. 様々な疾患に対するリハビリテーションの特徴を理解する

成績評価の方法

期末試験で評価するが、出席や授業態度、レポートなども評価に含める。

教科書

栢森良二著
学生のためのリハビリテーション医学概論
第3版医歯薬出版

授業概要

テキストに沿って，講義を中心に進めます。また失語症体験者の手記を通じ、その心理を考察します。

参考書

履修上の注意事項	教科書に眼を通し授業に臨むこと。

授業の計画

〈前学期〉		〈後学期〉	
第1回	イントロダクション リハビリテーションの理念①	第1回	
第2回	リハビリテーションの理念②	第2回	
第3回	リハビリテーションの対象と障害者の実態	第3回	
第4回	障害の階層とアプローチ	第4回	
第5回	リハビリテーション評価学①	第5回	
第6回	リハビリテーション評価学①	第6回	
第7回	リハビリテーション評価学③	第7回	
第8回	リハビリテーション評価学④ 失語症者の心理：自由への道標①	第8回	
第9回	リハビリテーション治療学 失語症者の心理：自由への道標②	第9回	
第10回	ライフステージにおける障害特性① 失語症者の心理：自由への道標③	第10回	
第11回	ライフステージにおける障害特性② 失語症者の心理：自由への道標④	第11回	
第12回	脳損傷のリハビリテーション 失語症者の心理：自由への道標⑤	第12回	
第13回	神経疾患のリハビリテーション 失語症者の心理：自由への道標⑥	第13回	
第14回	失語勝者の心理：自由への道標⑦	第14回	
第15回	模擬試験	第15回	

授業科目区分	専門	担当科目	言語聴覚障害総論Ⅰ	単位数	1	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	市川　理恵			受講学科	言語聴覚士学科		
				学　年	1年		
実務家教員としての経歴	大学院修士課程(2年)、急性期病院、介護老人保健施設、歯科病院、研究機関での非常勤(計2年) 回復期、亜急性期、療養病床、ホスピスを有する病院で常勤勤務(6年) 専門学校常勤教員業務(4年)、精神科病院での非常勤(2年)						
学期区分	前期	水曜日　2限		講義室等	201		
	後期			授業形式	講義・演習		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
言語聴覚障害の特性と種類、言語聴覚士の役割・専門性および言語聴覚療法の基本概念を修得する。	学期末試験 提出物、質疑応答においても評価
	教科書
授業概要	言語聴覚障害学概論　第2版 言語聴覚士テキスト第3版
4年間かけて学んでいく言語聴覚療法や、その対象となる障害について、また言語聴覚士という仕事について全体像を紹介する。全体を把握することで日々の学習の意義や全体から見た各科目の位置づけを意識して効率的に学習に臨めるようにする。	参考書

履修上の注意事項	

授業の計画

〈前学期〉		〈後学期〉	
第1回	オリエンテーション　職業紹介	第1回	
第2回	法律関係、リハビリテーションについて	第2回	
第3回	補足、振り返り	第3回	
第4回	コミュニケーションについて①	第4回	
第5回	コミュニケーションについて②	第5回	
第6回	コミュニケーションについて③	第6回	
第7回	補足、振り返り	第7回	
第8回	失語症	第8回	
第9回	SLTA	第9回	
第10回	補足、振り返り	第10回	
第11回	構音障害	第11回	
第12回	AMSD	第12回	
第13回	嚥下障害	第13回	
第14回	RSST、MWST、WST	第14回	
第15回	補足、まとめ	第15回	

授業科目区分	専門	担当科目	言語聴覚障害総論Ⅱ	単位数	1	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	白井 結			受講学科	言語聴覚士学科		
				学 年	1年		
実務家教員としての経歴							

学期区分	前期	曜日 時限	講義室等	201
	後期	水曜日 1時限	授業形式	講義・調べ学習・発表

授業のねらい、目標	成績評価の方法
言語聴覚士の仕事とカリキュラムについて学ぶ 言語聴覚士がかかわる障害について全体像を学び、スムーズに各論に進めるようにする 疑問点について医学書より調べ解決できる力を培う 質疑応答が積極的に行えるようになる	学期末試験 提出物、発表内容、質疑応答においても評価
授業概要	教科書
講義を中心に進めます。講義内容に関する調べ学習と発表を求めることもあります 国家試験出題箇所については適宜、ドリル・小テストにより記憶の定着を図	標準言語聴覚障害学　言語聴覚障害学総論 言語聴覚士テキスト第3版
	参考書

履修上の注意事項	

授業の計画

〈前学期〉		〈後学期〉	
第1回		第1回	小児言語聴覚障害（知的障害、脳性麻痺）
第2回		第2回	小児言語聴覚障害（知的障害、脳性麻痺）
第3回		第3回	小児言語聴覚障害（後天性言語障害、学習障害、ADHD）
第4回		第4回	小児言語聴覚障害（後天性言語障害、学習障害、ADHD）
第5回		第5回	小児言語聴覚障害（特異的言語発達障害、広汎性発達障害、吃音）
第6回		第6回	小児言語聴覚障害（特異的言語発達障害、広汎性発達障害、吃音）
第7回		第7回	小児言語聴覚障害（吃音）
第8回		第8回	小児言語聴覚障害（吃音）
第9回		第9回	まとめ
第10回		第10回	臨床活動（面接、検査）
第11回		第11回	臨床活動（評価・診断、訓練）
第12回		第12回	臨床活動（相談と環境調整、障害受容）
第13回		第13回	臨床活動（チームアプローチ、診療報酬、介護保険）
第14回		第14回	地域、在宅リハビリテーション
第15回	まとめ	第15回	まとめ

授業科目区分	専門	担当科目	言語聴覚診断学 総論Ⅰ	単位数	1	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	望月崇司			受講学科	言語聴覚士学科		
				学年	3年		
実務家教員としての経歴	回復期リハビリテーション:5年 急性期リハビリテーション:2年 教員業務:4年						
学期区分	前期	水曜日　3時限		講義室等	402教室／基礎実習室		
	後期			授業形式	講義・演習		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
①臨床に必要な評価の視点、診断の視点を身につける ②評価方法の選定から問題点の抽出ができるようになる ③問題点の出現メカニズムについて説明できるようになる	①演習の実績 ②レポート ③筆記試験 上記から総合的に判定する
	教科書
授業概要	言語聴覚療法技術ガイド
・評価の視点や方法など講義・演習から学んでいく。 ・適宜、演習を行いデイリーレポートの記載を行う。	参考書
	適宜、参照

履修上の注意事項	演習の場合、動ける服装で来てください

授業の計画

〈前学期：診断学Ⅰ〉			<後学期：>
第1回	評価と臨床　イントロダクション	第1回	
第2回	①嚥下障害の演習(4年生と合同)	第2回	
第3回	①の振り返りとフィードバック	第3回	
第4回	②構音障害の演習(4年生と合同)	第4回	
第5回	②の振り返りとフィードバック	第5回	
第6回	失語症の評価と分析(ロゴジェンモデルにて)	第6回	
第7回	③失語症の演習(4年生と合同)	第7回	
第8回	③の振り返りとフィードバック	第8回	
第9回	④症例検討(4年生と合同)	第9回	
第10回	④の振り返りとフィードバック	第10回	
第11回	⑤症例検討(4年生と合同)	第11回	
第12回	⑤の振り返りとフィードバック	第12回	
第13回	総括	第13回	
第14回	↓	第14回	
第15回	↓	第15回	

シラバス

授業科目区分	専門	担当科目	言語聴覚診断学 総論Ⅱ	単位数	1	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	泉　従道			受講学科	言語聴覚士学科		
				学　年	3年		
学期区分	前期			講義室等	402教室／基礎実習室		
	後期	金曜日　4限		授業形式	講義・演習		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
①臨床に必要な評価の視点、診断の視点を身につける ②評価方法の選定から問題点の抽出ができるようになる ③問題点の出現メカニズムについて説明できるようになる	①演習の実績 ②レポート ③筆記試験 上記から総合的に判定する
	教科書
授業概要	言語聴覚療法技術ガイド
・評価の視点や方法など講義・演習から学んでいく。 ・適宜、演習を行いデイリーレポートの記載を行う。	参考書
	適宜、参照

履修上の注意事項	演習の場合、動ける服装で来てください

授　業　の　計　画

第1回		第1回	評価と臨床　イントロダクション
第2回		第2回	スクリーニング検査について
第3回		第3回	①症例検討
第4回		第4回	①の振り返りとフィードバック
第5回		第5回	評価と診断－脳画像診断編－
第6回		第6回	評価と診断－諸検査編－
第7回		第7回	②症例検討
第8回		第8回	②の振り返りとフィードバック
第9回		第9回	復習と演習
第10回		第10回	↓
第11回		第11回	↓
第12回		第12回	構音障害に対するアプローチの立案
第13回		第13回	嚥下障害に対するアプローチの立案
第14回		第14回	失語症に対するアプローチの立案
第15回		第15回	総括

授業科目区分	専門	担当科目	実習指導Ⅰ	単位数	1	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	白井結			受講学科	言語聴覚士学科		
				学年	2年		
実務家教員としての経歴							
学期区分	前期	水曜日　2時限		講義室等	202		
	後期			授業形式	講義/演習		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
福祉実習に必要な知識、態度を身に付ける。	①授業態度　②事例報告検討　以上を総合して得点化して評価する
授業概要	教科書
	なし
	参考書
	実習先のパンフ、要覧類、HP

履修上の注意事項	福祉実習で使った日誌や記録等を持参すること。学外での守秘義務を厳守すること。

授業の計画

〈前学期：実習指導Ⅰ〉		<後学期：>	
第1回	関与しながらの観察　記録方法	第1回	
第2回	事例報告(書)・事例検討(研究)の方法	第2回	
第3回	福祉実習フィードバック	第3回	
第4回	こどもとの接し方　演習	第4回	
第5回	特別支援教育の概要	第5回	
第6回	学童期の課題と支援	第6回	
第7回	児童発達支援の概要	第7回	
第8回	乳幼児期の課題と支援	第8回	
第9回	福祉実習フィードバック	第9回	
第10回	報告検討　演習	第10回	
第11回	報告検討　演習	第11回	
第12回	報告検討　演習	第12回	
第13回	報告検討　演習	第13回	
第14回	報告検討　演習	第14回	
第15回	まとめ	第15回	

授業科目区分	専門	担当科目	実習指導Ⅰ	単位数	1	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	坂井　隆一			受講学科	言語聴覚士学科		
				学　年	2年		
実務家教員としての経歴	リハビリテーション病院にて回復期・療養期リハビリに6年半従事 専門学校にて教務歴2年半						
学期区分	前期			講義室等	202		
	後期	水曜日　1限		授業形式	講義、演習		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
実習に備えて、様々な面での指導を行う	受講態度、課題で評価（実技テスト）
授業概要	教科書
	参考書

履修上の注意事項	

授　業　の　計　画

〈前　学　期〉		〈後　学　期〉	
第1回		第1回	高齢者施設での福祉実習について
第2回		第2回	デイリー・実習日誌の書き方
第3回		第3回	コミュニケーション
第4回		第4回	〃
第5回		第5回	〃
第6回		第6回	〃
第7回		第7回	評価・デイリー実践
第8回		第8回	〃
第9回		第9回	〃
第10回		第10回	〃
第11回		第11回	〃
第12回		第12回	〃
第13回		第13回	復習と補充
第14回		第14回	復習と補充
第15回		第15回	まとめ

授業科目区分	専門	担当科目	実習指導Ⅱ①	単位数	1	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	林 耕司			受講学科	言語聴覚士学科		
				学 年	3年		
実務家教員としての経歴	甲州中央温泉病院 リハ科 3年 長野赤十字病院 リハ科 34年 現在は長野保健センター・千曲保健センター・愛の樹園・あすなろ園で小児領域の相談・訓練						
学期区分	前期	月曜日 1時限		講義室等	402		
	後期			授業形式	講義		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
臨床実習の概要を知り、言語聴覚療法（主として失語症）の評価・診断の技術を身につける。 . 1、評価の過程、結果の分析・問題点の抽出におけるポイントを知る。 2、失語症者K氏や見学・福祉実習で診た患者様の様態を深く掘り下げる。	・出席日数 ・提出レポート内容 ・発表内容 ・授業参加態度
授業概要	教科書 ・失語症言語治療の基礎 ・失語症学[第2版]
・SLTAを実際の患者様に実施し、実施方法・評価方法を学ぶ。 ・SLTAや掘り下げテストの結果を分析する。 ・福祉実習や見学実習の実際から問題点を分析する。	参考書 ・脳卒中後のコミュニケーション障害
履修上の注意事項	

授 業 の 計 画

〈前 学 期〉		〈後 学 期〉	
第1回	SLTAの実施目的・実施方法・評価方法①	第1回	
第2回	SLTAの実施目的・実施方法・評価方法②	第2回	
第3回	SLTA-STの実施目的・実施方法・評価方法	第3回	
第4回	S氏の検査結果分析→掘り下げテストを考える	第4回	
第5回	掘り下げテストの実施練習	第5回	
第6回	K氏の検査結果分析①	第6回	
第7回	K氏の検査結果分析②	第7回	
第8回	見学実習の流れを理解する	第8回	
第9回	福祉実習の実際と問題点①	第9回	
第10回	福祉実習の実際と問題点②	第10回	
第11回	評価の実際①	第11回	
第12回	評価の実際②	第12回	
第13回	評価の実際③	第13回	
第14回	見学実習の感想と反省	第14回	
第15回	まとめ	第15回	

授業科目区分	専門	担当科目	実習指導Ⅱ	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	60		
担当教員	坂井　隆一			受講学科	言語聴覚士学科		
				学　年	3年生		
実務家教員としての経歴	リハビリテーション病院にて回復期・療養期リハビリに6年半従事 専門学校にて教務歴2年半						
学期区分	前期	木曜日　4時限		講義室等	402		
	後期	月曜日　2時限		授業形式	講義、演習		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
実習に備えて、様々な面での指導を行う	受講態度、課題で評価（実技テスト）
	教科書
授業概要	
	参考書

履修上の注意事項	

授　業　の　計　画

〈前　学　期〉		〈後　学　期〉	
第1回	福祉実習について	第1回	評価実習について
第2回	観察のポイント・記録の書き方	第2回	報告書の書き方
第3回	観察のポイント・記録の書き方	第3回	〃
第4回	観察のポイント・記録の書き方	第4回	〃
第5回	観察のポイント・記録の書き方	第5回	評価・報告書実践
第6回	評価・訓練・記録	第6回	〃
第7回	評価・訓練・記録	第7回	〃
第8回	評価・訓練・記録	第8回	〃
第9回	見学実習について	第9回	〃
第10回	評価・訓練・記録・演習	第10回	〃
第11回	評価・訓練・記録・演習	第11回	〃
第12回	評価・訓練・記録・演習	第12回	〃
第13回	評価・訓練・記録・演習	第13回	〃
第14回	評価・訓練・記録・演習	第14回	まとめ
第15回	まとめ	第15回	まとめ

授業科目区分	専門	担当科目	実習指導Ⅱ	単位数	1	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	望月崇司			受講学科	言語聴覚士学科		
				学年	3年		

実務家教員としての経歴
回復期リハビリテーション:5年
急性期リハビリテーション:2年
教員業務:4年

学期区分			講義室等	402教室／基礎実習室
	前期			
	後期	木曜日　1時限	授業形式	講義・演習

授業のねらい、目標	成績評価の方法
①臨床に必要な評価の視点、診断の視点を身につける ②評価方法の選定から問題点の抽出ができるようになる ③問題点の出現メカニズムについて説明できるようになる	①演習の実績 ②レポート 上記から総合的に判定する
	教科書
授業概要	
・評価の視点や方法など講義・演習から学んでいく。 ・適宜、演習を行いデイリーレポートの記載を行う。	参考書 適宜、必要な教科書を参照すること

履修上の注意事項	演習の場合、動ける服装で来てください

授業の計画

〈前学期：〉		＜後学期＞	
第1回		第1回	評価と臨床　イントロダクション
第2回		第2回	スクリーニングによる評価と臨床
第3回		第3回	⑥症例検討（運動障害性構音障害）
第4回		第4回	⑥の振り返りとフィードバック
第5回		第5回	評価と診断－脳画像診断編－
第6回		第6回	評価と診断－諸検査編－
第7回		第7回	⑦症例検討（嚥下障害）
第8回		第8回	⑦の振り返りとフィードバック
第9回		第9回	復習と演習
第10回		第10回	↓
第11回		第11回	↓
第12回		第12回	構音障害に対するアプローチの立案
第13回		第13回	嚥下障害に対するアプローチの立案
第14回		第14回	失語症に対するアプローチの立案
第15回		第15回	総括

授業科目区分	専門	担当科目	言語聴覚診断学 実習指導Ⅲ	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	60		
担当教員	望月崇司			受講学科	言語聴覚士学科		
				学　年	4年		
実務家教員としての経歴	回復期リハビリテーション:5年 急性期リハビリテーション:2年 教員業務:4年						
学期区分	前期	火曜日　3.4時限		講義室等	401教室／基礎実習室		
	後期	曜日　時限		授業形式	演習		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
①臨床に必要な評価の視点、診断の視点を身につける ②評価結果を分析し、問題点の抽出、訓練プログラムの立案ができる ③立案した訓練プログラムを実際に行い、結果をまとめることができる	演習の実績・レポート内容から判定する
	教科書
授業概要 ・模擬患者を想定し、評価と訓練プログラムの立案を行う ・実際に立案した訓練をお互いに実施し経過をまとめる ・担当教務は適宜指導・アドバイスを行う	言語聴覚士のための臨床実習テキスト　成人編
	参考書
	適宜、参照

履修上の注意事項	演習の場合、動ける服装で来てください

授業の計画

〈前学期〉

第1回	評価と臨床　イントロダクション	第16回	④症例提示ー嚥下応用編ー
第2回	①評価実習レポートの掘り下げー嚥下編ー	第17回	〃
第3回	〃	第18回	④の実践(3年生と合同)
第4回	①の実践(3年生と合同)	第19回	④の振り返りとフィードバック
第5回	①の振り返りとフィードバック	第20回	⑤症例提示ー構音応用編ー
第6回	②評価実習レポートの掘り下げー構音編ー	第21回	〃
第7回	〃	第22回	⑤の実践(3年生と合同)
第8回	②の実践(3年生と合同)	第23回	⑤の振り返りとフィードバック
第9回	②の振り返りとフィードバック	第24回	レポート分析の方法
第10回	嚥下障害と構音障害に関する補足	第25回	総括
第11回	失語症に関する補足	第26回	
第12回	③評価実習レポートの掘り下げー失語編ー	第27回	
第13回	〃	第28回	
第14回	③の実践(3年生と合同)	第29回	
第15回	③の振り返りとフィードバック	第30回	

授業科目区分	専門	担当科目	実習指導Ⅲ②	単位数	1	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	林 耕司			受講学科	言語聴覚士学科		
				学 年	4年		

実務家教員としての経歴
甲州中央温泉病院 リハ科 3年
長野赤十字病院 リハ科 34年
現在は長野保健センター・千曲保健センター・愛の樹園・あすなろ園で小児領域

学期区分				
前期	月曜日 4時限	講義室等	401	
後期		授業形式	講義/演習	

授業のねらい	成績評価の方法
言語聴覚療法(主として失語症)の評価・診断の実際を知り、訓練計画を立て	・出席日数
訓練が実施できる。	・提出レポート内容
目標	・発表内容
1、SLTA及び掘り下げ検査が実施でき、結果を分析・考察できる。	・授業参加態度
2、仮説診断に基づいて訓練計画を立てる。	教科書
3、訓練が実施できる。	・失語症言語治療の基礎
授業概要	・失語症学[第2版]
1、SLTAを実施し結果を分析する。	・脳卒中後のコミュニケーション障害
2、掘り下げ検査を実施し結果を分析する。	
3、仮説診断に基づいて訓練計画を立て、訓練を実施する。	

履修上の注意事項	

授業の計画

〈前学期〉		〈後学期〉	
第1回	SLTA実施①	第1回	
第2回	SLTA実施②	第2回	
第3回	SLTAの結果分析	第3回	
第4回	問題点を抽出し訓練計画を立てる	第4回	
第5回	訓練内容検討①	第5回	
第6回	訓練内容検討②	第6回	
第7回	訓練実施①	第7回	
第8回	訓練実施②	第8回	
第9回	障害特徴に応じた訓練内容検討①	第9回	
第10回	障害特徴に応じた訓練内容検討②	第10回	
第11回	重度失語症例へのアプローチの仕方	第11回	
第12回	ケーススタディ:ブローカ失語	第12回	
第13回	ケーススタディ:ウエルニッケ失語	第13回	
第14回	ケーススタディ:伝導失語、全失語	第14回	
第15回	まとめ	第15回	

授業科目区分	専門	担当科目	失語症Ⅰ、Ⅱ	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	60		
担当教員	坂井　隆一			受講学科	言語聴覚士学科		
				学　年	2年生		
実務家教員としての経歴	リハビリテーション病院にて回復期・療養期リハビリに6年半従事 専門学校にて教務歴2年半						
学期区分	前期	木曜日　3時限		講義室等	202		
	後期	火曜日　2時限		授業形式	講義、演習		

授業のねらい、目標	受講態度、課題、中間試験・期末試験で評価
失語症の基礎を理解する 失語症の言語症状を理解する 古典的タイプ分類を理解する 認知神経心理学的評価の基礎を理解する 病巣と失語症状 授業概要	教科書 失語症学第2版　失語症言語治療の基礎 なるほど納得失語症 参考書

履修上の注意事項	

授　業　の　計　画

〈前　学　期〉		〈後　学　期〉	
第1回	失語症の歴史、基礎知識	第1回	認知神経心理学モデルとは
第2回	失語症の神経基盤	第2回	聴覚的理解
第3回	〃	第3回	呼称
第4回	失語症の言語症状	第4回	復唱
第5回	〃	第5回	音読
第6回	〃	第6回	書称
第7回	確認テスト	第7回	書取
第8回	古典的タイプ分類	第8回	小テスト
第9回	〃	第9回	文レベルの処理について
第10回	〃	第10回	構文能力について
第11回	〃	第11回	失語症鑑別診断検査
第12回	〃	第12回	掘り下げ検査
第13回	その他のタイプ	第13回	SLTAの評価
第14回	復習と補充	第14回	〃
第15回	まとめ	第15回	まとめ

授業科目区分	専門	担当科目	失語症 Ⅲ・Ⅳ	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	60		
担当教員	林 耕司			受講学科	言語聴覚士学科		
				学 年	3年		

実務家教員としての経歴
甲州中央温泉病院 リハ科 3年
長野赤十字病院 リハ科 34年
現在は長野保健センター・千曲保健センター・愛の樹園・あすなろ園で小児領域の相談・訓練

学期区分			講義室等	402
	前期	火曜日 1時限		
	後期	火曜日 1時限	授業形式	講義

授業のねらい、目標	成績評価の方法
失語症の基礎知識を確実にし、評価・診断・治療の実際を身につける。 目標 1、失語症の言語症状、タイプ分類、認知神経心理学の知識をさらに深く身につける。 2、鑑別診断検査であるSLTAが実施でき、結果が分析できる。 3、評価し仮説診断し、訓練計画を立て、実際に訓練が可能になる。	・期末テスト ・小テスト
授業概要	教科書
ロールプレイ 実際の症例分析 ビデオ分析を通して理解を深める。	・失語症言語治療の基礎 ・失語症学 第2版 ・脳卒中後のコミュニケーション障害

履修上の注意事項	

授業の計画

〈前学期〉		〈後学期〉	
第1回	ICFと失語症/失語症研究の歴史	第1回	失語症評価・診断の枠組み
第2回	各失語症タイプの言語症状の特徴①ロールプレイ	第2回	言語治療の理論と技法①
第3回	各失語症タイプの言語症状の特徴②ロールプレイ	第3回	言語治療の理論と技法②
第4回	SLTA-STによる評価の仕方	第4回	文献講読①
第5回	失語症例の評価・分析①	第5回	文献講読②
第6回	失語症例の評価・分析②	第6回	文献講読③
第7回	失語症例の評価・分析③	第7回	ロゴジェンモデル①
第8回	SLTAによる評価・分析の視点①	第8回	ロゴジェンモデル②
第9回	SLTAによる評価・分析の視点②	第9回	ロゴジェンモデル③
第10回	掘り下げテストによる評価・分析	第10回	語音と語義
第11回	言語治療の原則	第11回	言語治療計画の立て方
第12回	各期の言語治療	第12回	失語症の回復①
第13回	言語の神経基盤	第13回	失語症の回復②
第14回	言語治療の理論	第14回	まとめ①
第15回	まとめ	第15回	まとめ②

授業科目区分	専門	担当科目	高次脳機能障害Ⅰ、Ⅱ	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	60		
担当教員	坂井　隆一			受講学科	言語聴覚士学科		
				学　年	2年生　3年生		
実務家教員としての経歴	リハビリテーション病院にて回復期・療養期リハビリに6年半従事 専門学校にて教務歴2年半						
学期区分	前期	水曜日　2時限		講義室等	202,402		
	後期	月曜日　3時限		授業形式	講義、演習		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
高次脳機能障害についての学び、その概要・原因・対処方法などを学ぶ	受講態度、課題、期末テストで評価
	教科書
授業概要	高次脳機能障害学 高次脳機能障害マエストロ③、④
	参考書

履修上の注意事項	

授業の計画

〈前学期〉		〈後学期〉	
第1回	高次脳機能障害Ⅰの復習	第1回	脳機能・高次脳機能概要
第2回	高次脳機能障害Ⅰの復習	第2回	脳機能・高次脳機能概要
第3回	注意障害	第3回	失認
第4回	前頭葉機能	第4回	失行
第5回	発動・発動性障害・情動・脱抑制・	第5回	強迫性行為・動作の開始の障害
第6回	高次脳機能障害の評価・検査・診断	第6回	半側空間無視
第7回	高次脳機能障害の評価・検査・診断	第7回	身体失認、病態失認
第8回	高次脳機能障害の評価・検査・診断	第8回	ゲルストマン、バリント、ブッシャー症候群
第9回	高次脳機能障害の評価・検査・診断	第9回	認知症
第10回	高次脳機能障害の訓練	第10回	認知症
第11回	高次脳機能障害の訓練	第11回	意識障害
第12回	高次脳機能障害の訓練	第12回	発動性、発動性障害
第13回	高次脳機能障害の訓練	第13回	情動、脱抑制
第14回	まとめ	第14回	まとめ、補習
第15回	まとめ	第15回	まとめ、補習

授業科目区分	専門	担当科目	言語発達障害学総論Ⅰ・Ⅱ	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	60		
担当教員	万年康男			受講学科	言語聴覚士学科		
				学年	2年		
実務家教員としての経歴	小学校ことばの教室(通級指導) 20年 特別支援学校で教育相談(発達障害等巡回相談) 16年 大学院で研究(聴覚言語障害)2年 本校で教員兼務(非常勤講師)15年						
学期区分	前期 後期	月曜日 1時限		講義室等	202		
				授業形式	講義／演習		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
言語発達障害の概要を理解する。	①授業態度 ②課題 ③筆記試験 を総合して得点化して評価する。
	教科書
授業概要	言語聴覚士テキスト
教科書や学問体系にそった項目よりも、「福祉実習」と「研究発表」とリンクしながら進めていきます。	参考書
	配布資料

履修上の注意事項	発達障害の学習中に、「自分もそうかも？」と心配になる場合があります。誰にでも特性はありますが、自己理解と対策が今後の学習にも役立ちます。遠慮なく相談してください。

授業の計画

〈前学期：言語発達障害学総論Ⅰ〉		＜後学期：言語発達障害学総論Ⅱ ＞	
第1回	知的障害	第1回	支援計画 チーム支援 連携
第2回	発達障害	第2回	TEACCH 構造化 視覚的支援 PECS
第3回	言語発達障害	第3回	合理的配慮 ユニバーサルデザイン
第4回	自閉症スペクトラム障害①	第4回	SST ペアレントトレーニング
第5回	自閉症スペクトラム障害②	第5回	インリアルアプローチ
第6回	自閉症スペクトラム障害③	第6回	事例検討
第7回	注意欠如・多動性障害①	第7回	事例検討
第8回	注意欠如・多動性障害②	第8回	事例検討
第9回	学習障害①	第9回	事例検討
第10回	学習障害②	第10回	事例検討
第11回	愛着障害	第11回	事例検討
第12回	合併併存障害と二次障害	第12回	事例検討
第13回	小テスト①	第13回	事例検討
第14回	小テスト②	第14回	小テスト
第15回	まとめ	第15回	まとめ

授業科目区分	専門	担当科目	言語発達障害学(CP)	単位数	1	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	野沢由紀子			受講学科	言語聴覚士学科		
				学年	3年		
学期区分	前期	木曜日 1・2 時限		講義室等	402号室		
	後期	曜日 時限		授業形式	講義・演習・見学実習		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
1)脳性まひ(重症心身障がいを含む)児の言語・コミュニケーション障がいの特性・発達を理解し、評価および支援方法の基礎を学ぶ。 2)小児の摂食・嚥下機能の発達をおさえた上で、その障がいの特性を理解し評価および支援方法の基礎を学ぶ。	レポート
	教科書
授業概要	無
1)上記のねらい・目標にのっとり、脳性まひや重症心身障がい児に対して可能な限り、視覚的映像も活用しながら具体的イメージを持つ。 2)成人の摂食嚥下障害との共通点・相違点を念頭におきながら、実技演習や見学を通して、支援の基本的視点をおさえる。	参考書 無

履修上の注意事項	

授業の計画

〈前学期〉		〈後学期〉	
第1回	1)脳性まひとは？～概論～	第1回	
	2)小児の摂食嚥下障害とは？～概論～	第2回	
第2回	1)脳性麻痺の言語・コミュニケーション障害(タイプ 分類を中心に)	第3回	
	2)摂食嚥下機能の定型発達	第4回	
第3回	1)姿勢運動機能と言語コミュニケーション障害	第5回	
	2)摂食嚥下機能の評価	第6回	
第4回	1)脳性まひの言語・コミュニケーション障害に対する支援の実際	第7回	
	2)摂食嚥下機能の障害を持つこどもたちへの支援の実際	第8回	
第5回	1)ライフステージに応じた言語・コミュニケーション障害に対する支援	第9回	
	2)知的障害・発達障害など食行動の問題を持つこどもたちへの支援の実際	第10回	
第6回	1)重症心身障がい児への言語・コミュニケーション支援	第11回	
	2)ライフステージに応じた摂食嚥下の支援	第12回	
第7回	評価からプログラム立案まで	第13回	
第8回	信濃医療福祉センター見学実習	第14回	
		第15回	

授業科目区分	専門	担当科目	言語発達障害学Ⅰ（評価・指導・訓練）	単位数	1	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	万年康男			受講学科	言語聴覚士学科		
				学　年	2年		
実務家教員としての経歴	小学校ことばの教室（通級指導）　20年 特別支援学校教育相談（発達障害等巡回相談）　16年 大学院研究（聴覚障害）2年 本校教員兼務（非常勤講師）15年						
学期区分				講義室等	202		
	後期	水曜日　2時限		授業形式	講義／演習		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
ウェクスラー式の検査について掘り下げて演習することで、評価から支援への具体的な流れを理解することをねらいとする。	①授業態度　②課題　③筆記試験　以上を総合して得点化して評価する。
授業概要	教科書
・演習を多用します。	言語聴覚士テキスト
	参考書
	日本文化科学社ホームページ「WISC-Ⅳテクニカルレポート」

履修上の注意事項	

授業の計画

〈前学期：〉		＜後学期：言語発達障害学Ⅰ（評価・指導・訓練）＞	
第1回		第1回	発達の評価　概要
第2回		第2回	発達の評価　演習1（実施法①）
第3回		第3回	発達の評価　演習2（実施法②）
第4回		第4回	発達の評価　演習3（実施法③）
第5回		第5回	発達の評価　演習4（実施法④）
第6回		第6回	発達の評価　演習5（実施法⑤）
第7回		第7回	発達の評価　演習6（採点処理法）
第8回		第8回	発達の評価　演習7（分析）
第9回		第9回	発達の評価　演習8（解釈レポート作成①）
第10回		第10回	発達の評価　演習9（解釈レポート作成②）
第11回		第11回	事例検討①
第12回		第12回	事例検討②
第13回		第13回	事例検討③
第14回		第14回	小テスト
第15回		第15回	まとめ

授業科目区分	専門	担当科目	言語発達障害学Ⅱ・Ⅲ	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	60		
担当教員	林 耕司			受講学科	ST学科		
				学 年	3年		
実務家教員としての経歴	甲州中央温泉病院 リハ科 3年 長野赤十字病院 リハ科 34年 現在は長野保健センター・千曲保健センター・愛の樹園・あすなろ園で小児領域の相談・訓練 言語発達遅滞の言語治療						
学期区分	前期	火曜日 4時限		講義室等	402		
	後期	火曜日 4時限		授業形式	講義		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
言語発達障害の基礎知識を十分なものとし、主として国リハ式＜S-S法＞言語発達遅滞検査に習熟し、包括的な評価・訓練の知識を身につける。また、各種検査や様々な支援方法も学ぶ。	・期末試験 ・小テスト
	教科書
	・言語発達遅滞の言語治療 ・言語発達障害学 第2版
授業概要	
国リハ式＜S-S法＞言語発達遅滞検査に習熟しながら、検査記録のつけ方、評価の仕方を実際の症例ビデオを通して学ぶ。	参考書

履修上の注意事項	

授業の計画

〈前学期〉		〈後学期〉	
第1回	小児の言語発達障害の臨床って何だろう？	第1回	ビデオ症例の分析①
第2回	言語発達の阻害要因と言語発達障害	第2回	ビデオ症例の分析②
第3回	＜S-S法＞の3側面アプローチ①	第3回	ビデオ症例の分析③
第4回	＜S-S法＞の3側面アプローチ②	第4回	ビデオ症例の分析④
第5回	前言語期の発達段階ー段階1・2ー	第5回	ビデオ症例の分析⑤
第6回	単語獲得期の発達段階ー段階3 事物の記号ー	第6回	各種検査の内容①
第7回	前期構文獲得期の発達段階ー段階4 語連鎖ー	第7回	各種検査の内容②
第8回	中期構文獲得期の発達段階ー段階5 統語ー	第8回	各種検査の内容③
第9回	症状分類	第9回	支援方法と実際①
第10回	言語発達障害の評価	第10回	支援方法と実際②
第11回	症例ビデオの検査実施記録をつける①	第11回	支援方法と実際③
第12回	症例ビデオの検査実施記録をつける②	第12回	AAC①
第13回	症例ビデオの検査実施記録をつける③	第13回	AAC②
第14回	まとめ①	第14回	AAC③
第15回	まとめ②	第15回	まとめ

授業科目区分	専門	担当科目	器質性構音障害	単位数	1	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	市川　理恵			受講学科	言語聴覚士学科		
				学　年	2年		

実務家教員としての経歴
大学院修士課程(2年)、急性期病院、介護老人保健施設、歯科病院、研究機関での非常勤(計2年)
回復期、亜急性期、療養病床、ホスピスを有する病院で常勤勤務(6年)
専門学校常勤教員業務(4年)、精神科病院での非常勤(2年)

学期区分				
	前期		講義室等	202
	後期	水曜　3～4限	授業形式	講義

授業のねらい、目標	成績評価の方法
器質性構音障害の評価、訓練が実施できるようになる	期末試験で評価。 授業態度や小テスト などを評価に含める。
	教科書
授業概要	器質性構音障害　建帛社
器質性構音障害の概要、評価や治療の方法・手技を習得する。	参考書

履修上の注意事項	

授業の計画

〈前学期〉		〈後学期〉	
第1回		第1回	器質性構音障害について(導入)
第2回		第2回	口唇口蓋裂について(疫学・顔面発生)
第3回		第3回	口唇口蓋裂(出生後からのチームアプローチ)
第4回		第4回	口唇裂の手術
第5回		第5回	口蓋裂の手術
第6回		第6回	二次手術・補綴物について
第7回		第7回	口蓋裂言語について
第8回		第8回	鼻咽腔閉鎖機能・言語検査・評価
第9回		第9回	訓練プログラムについての考え方
第10回		第10回	訓練法
第11回		第11回	口唇口蓋裂を合併しやすい症候群
第12回		第12回	口唇口蓋裂を合併しやすい症候群
第13回		第13回	口蓋裂以外で器質性構音障害を引き起こす疾患
第14回		第14回	口蓋裂以外の器質性構音障害の治療
第15回		第15回	まとめ

授業科目区分	専門	担当科目	機能性構音障害	単位数	1	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	市川　理恵			受講学科	言語聴覚士学科		
				学　年	2年		

実務家教員としての経歴
大学院修士課程(2年)、急性期病院、介護老人保健施設、歯科病院、研究機関での非常勤(計2年)
回復期、亜急性期、療養病床、ホスピスを有する病院で常勤勤務(6年)
専門学校常勤教員業務(4年)、精神科病院での非常勤(2年)

学期区分	前期	木曜日　4時限	講義室等	202
	後期		授業形式	講義

授業のねらい、目標	成績評価の方法
小児の音韻、構音の発達と機能性構音障害について学ぶ。 構音障害の検査・評価・訓練の方法、流れを理解し、自分で 考えられるようになる。	期末試験で評価。 授業態度や小テスト なども評価に含める。
	教科書
授業概要	改訂機能性構音障害
小児の音韻意識、構音機能についての定型発達を理解する。 機能性構音障害の特徴と介入の基本的な考え方を身につける。 機能性構音障害の検査(聴覚判定を含む)、訓練方法を習得する。	参考書

履修上の注意事項	

授業の計画

〈前学期〉		〈後学期〉	
第1回	導入、構音障害とは	第1回	
第2回	構音の発達と構音の誤り、異常構音	第2回	
第3回	訓練適応と鑑別診断	第3回	
第4回	復習小テスト、補足	第4回	
第5回	構音検査(概要の説明)	第5回	
第6回	構音検査(結果の分析)	第6回	
第7回	構音検査(訓練の考え方)	第7回	
第8回	構音検査演習(症例検討グループワーク)	第8回	
第9回	訓練法(有声、無声、母音、異常構音の修正等)	第9回	
第10回	訓練法(p、b、m、Φ)	第10回	
第11回	訓練法(t、d、n、k、g、ŋ 、s、 z)	第11回	
第12回	訓練法(ts、dz、tɕ、dʑ、ç、h、半母音、ɾ)	第12回	
第13回	訓練の流れと終了まで	第13回	
第14回	症例検討	第14回	
第15回	総復習、補足	第15回	

授業科目区分	専門	担当科目	吃音	単位数	1	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	金子多恵子			受講学科	言語聴覚士		
				学年	2年		
学期区分	前期	曜日　時限		講義室等	202		
	後期	金曜日　3,4時限		授業形式	講義		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
吃音についての基礎的な知識を持ち、評価・支援の方法について理解する。 また、吃音を取り巻く現状を理解し、STが果たすべき役割について考える。	学期末に試験を行います。 授業や話し合いへの参加態度、提出物も考慮します。
	教科書
授業概要	なし
講義中心に行いますが、当事者や保護者の方、外部講師の方を招いて 生の声を聞いていただく機会も予定しています。	参考書
	吃音の基礎と臨床　バリー・ギター著　学苑社 キラキラ—どもる子どものものがたり　堅田利明　海風社

履修上の注意事項	

授業の計画

〈前学期〉		〈後学期〉	
第1回		第1回	導入
第2回		第2回	吃音の基礎知識(1)(定義、症状など)
第3回		第3回	吃音の基礎知識(2)(原因論、歴史など)
第4回		第4回	吃音の基礎知識(3)(自然治癒 、進展など)
第5回		第5回	評価の基礎と訓練・指導の基礎
第6回		第6回	吃音検査法
第7回		第7回	幼児期の吃音臨床①特徴、訓練、支援
第8回		第8回	成人期の吃音臨床①特徴、訓練、支援
第9回		第9回	学齢期の吃音臨床①特徴、訓練、支援
第10回		第10回	幼児・学齢・成人期の吃音臨床
第11回		第11回	臨床の実際、症例
第12回		第12回	その他の非流暢性の障害 (獲得性吃音、クラッタリング)
第13回		第13回	当事者・親御さんからのメッセージ
第14回		第14回	当事者・親御さんからのメッセージ
第15回		第15回	まとめ

授業科目区分	専門	担当科目	音声障害	単位数	1	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	坂井 隆一			受講学科	言語聴覚士学科		
				学 年	3年生		
実務家教員としての経歴	リハビリテーション病院にて回復期・療養期リハビリに6年半従事 専門学校にて教務歴2年半						
学期区分	前期	火曜日 3時限		講義室等	402		
	後期	曜日 時限		授業形式	講義中心		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
音声生成の機序や関係器官の仕組みを知る 音声障害の種類や症状を理解する 実際の音声を聴き、音声評価を行える	受講態度、課題、期末テストで評価
	教科書
授業概要	標準言語聴覚障害学 発声発語障害学第2版
	参考書

履修上の注意事項	

授業の計画

	〈前 学 期〉			〈後 学 期〉	
第1回	音声を構成する要素、その仕組みについて	振り返りプリント		第1回	
第2回	声帯の構造、音声生成の機序	振り返りプリント		第2回	
第3回	喉頭の解剖	振り返りプリント		第3回	
第4回	音声障害の種類、定義	振り返りプリント		第4回	
第5回	器質性音声障害	振り返りプリント		第5回	
第6回	運動障害性音声障害、機能性音声障害	振り返りプリント		第6回	
第7回	検査の種類と目的	振り返りプリント		第7回	
第8回	評価と鑑別診断	振り返りプリント		第8回	
第9回	GRBAS評価	振り返りプリント		第9回	
第10回	音声訓練の目的、種類、適応	振り返りプリント		第10回	
第11回	音声訓練	振り返りプリント		第11回	
第12回	音声訓練	振り返りプリント		第12回	
第13回	復習と補充			第13回	
第14回	復習と補充			第14回	
第15回	まとめ			第15回	

授業科目区分	専門	担当科目	運動障害性構音障害Ⅰ	単位数	1	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	望月崇司			受講学科	言語聴覚士学科		
				学年	2年		

実務家教員としての経歴
回復期リハビリテーション:5年
急性期リハビリテーション:2年
教員業務:4年

学期区分				
前期	曜日　時限	講義室等	202教室	
後期	火曜日　4時限	授業形式	講義	

授業のねらい、目標	成績評価の方法
①神経系や呼吸器系、音声学などの基礎的学習を構音障害の理解につなげることができる ②運動障害性構音障害に必要な運動器系・神経系の障害を理解する ③運動障害背構音障害のタイプを学び、タイプごとの特徴が理解できる 上記を理解し説明できるようになる	筆記試験の成績
授業概要	教科書
・運動障害性構音障害の理解に必要な神経や運動メカニズムについて教科書ベースのスライドにて概説していく。 ・タイプを理解するためにはディサースリア検査の実施が必要になるため、各自練習を進めていくこと。	ディサースリアの基礎と臨床　2巻 ディサースリアの基礎と臨床　3巻
	参考書
	神経原性発声発語障害　dysarthria ディサースリアの基礎と臨床　1巻

履修上の注意事項	空き時間などを利用してディサースリア検査の練習を行い、適宜質問に来ること。

授業の計画

〈前学期〉		〈後学期〉	
第1回		第1回	ディサースリアと神経運動系　イントロダクション （スライド基礎編①）
第2回		第2回	運動の伝導路とその障害 （スライド基礎編②）
第3回		第3回	ディサースリアに必要な運動系 （スライド基礎編③）
第4回		第4回	錐体路の特徴とその障害 （スライド基礎編④）
第5回		第5回	下位運動ニューロンの特徴とその障害 （スライド基礎編⑤）
第6回		第6回	錐体外路系の特徴とその障害 （スライド基礎編⑥）
第7回		第7回	小脳の特徴とその障害 （スライド基礎編⑦）
第8回		第8回	ディサースリア検査の特徴と実施方法① （スライド基礎編⑧）
第9回		第9回	ディサースリア検査の特徴と実施方法②
第10回		第10回	ディサースリア検査の特徴と実施方法③
第11回		第11回	ディサースリアのタイプとその特徴① （スライド基礎編⑨）
第12回		第12回	ディサースリアのタイプとその特徴②
第13回		第13回	ディサースリアのタイプとその特徴③
第14回		第14回	ディサースリアのタイプとその特徴④
第15回		第15回	ディサースリアのタイプとその特徴⑤

授業科目区分	専門	担当科目	運動障害性構音障害Ⅱ	単位数	1	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	望月崇司			受講学科	言語聴覚士学科		
				学年	3年		
実務家教員としての経歴	回復期リハビリテーション:5年 急性期リハビリテーション:2年 教員業務:4年						
学期区分	前期	木曜日 3時限		講義室等	402教室		
	後期	曜日 時限		授業形式	講義／演習		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
①2年生で学んだ運動障害性構音障害の基礎を活かして評価・分析を行い治療アプローチを考えられるようになる ②簡潔にまとめることができ、問題点の抽出がおこなえる ③治療アプローチを理解し、病態に応じた対応が可能となる	筆記試験の成績により判定する
	教科書
授業概要	ディサースリアの基礎と臨床 3巻
・ディサースリアの病態メカニズムについて説明し、出現症状を神経学的・運動学的に説明できるように進めていく ・ディサースリアのアプローチを概説し、実技も行っていく	参考書 神経原性発声発語障害 dysarthria ディサースリアの基礎と臨床 1巻、2巻

履修上の注意事項	

授業の計画

〈前学期〉		〈後学期〉	
第1回	ディサースリアのまとめ方 ーsoapー (スライド臨床編①)	第1回	
第2回	ディサースリアに必要な検査① (スライド実践編②)	第2回	
第3回	ディサースリアに必要な検査② (スライド実践編③)	第3回	
第4回	構音障害に対する運動的アプローチについて (スライド実践編④)	第4回	
第5回	呼吸障害の分析(スライド実践編⑤)	第5回	
第6回	呼吸障害に対する治療(スライド実践編⑥)	第6回	
第7回	発声障害の分析(スライド実践編⑦)	第7回	
第8回	発声障害に対する治療(スライド実践編⑧)	第8回	
第9回	鼻咽腔閉鎖機能不全の分析(スライド実践編⑨)	第9回	
第10回	鼻咽腔閉鎖機能不全に対する治療 (スライド実践編⑩)	第10回	
第11回	口腔構音器官運動障害の分析 (スライド実践編⑪)	第11回	
第12回	口腔構音器官運動障害に対する治療 (スライド実践編⑫)	第12回	
第13回	発話速度の調整法・その他アプローチ (スライド実践編⑬)	第13回	
第14回	実践的アプローチ①(神経運動学的分析)	第14回	
第15回	実践的アプローチ②(神経運動学的分析)	第15回	

授業科目区分	専門	担当科目	嚥下障害Ⅰ、Ⅱ	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	60		
担当教員	坂井 隆一			受講学科	言語聴覚士学科		
				学 年	2年生		
実務家教員としての経歴	リハビリテーション病院にて回復期・療養期リハビリに6年半従事 専門学校にて教務歴2年半						
学期区分	前期	水曜日 3時限		講義室等	202		
	後期	火曜日 2時限		授業形式	講義中心		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
健常者の摂食嚥下を知り、理解する モデル（5期、プロセス）での嚥下パターン理解 嚥下に関与する筋の名称、働きの把握 発達・加齢による摂食嚥下機能の変化を知る 摂食嚥下障害の評価・検査・診断の仕方を知る 授業概要	受講態度、課題、期末テストで評価 教科書 摂食嚥下リハビリテーション 第3版 参考書

履修上の注意事項	

授業の計画

〈前学期〉			〈後学期〉		
第1回	摂食嚥下の概要	振り返りプリント	第1回	嚥下Ⅰの復習	振り返りプリント
第2回	摂食嚥下の生理	振り返りプリント	第2回	嚥下Ⅰの復習	振り返りプリント
第3回	摂食嚥下の生理	振り返りプリント	第3回	発達と摂食嚥下機能	振り返りプリント
第4回	プロセスモデル	振り返りプリント	第4回	摂食嚥下機能の加齢変化	振り返りプリント
第5回	摂食嚥下の概要	振り返りプリント	第5回	フレイルと栄養障害	振り返りプリント
第6回	5期モデル、3期4期モデル	振り返りプリント	第6回	摂食嚥下障害の評価・検査・診断	振り返りプリント
第7回	プロセスモデル	振り返りプリント	第7回	〃	振り返りプリント
第8回	プロセスモデル	振り返りプリント	第8回	〃	振り返りプリント
第9回	摂食・嚥下器官の解剖（口唇・口蓋・頬・舌・歯）	振り返りプリント	第9回	〃	振り返りプリント
第10回	摂食・嚥下器官の解剖（咽頭・食道）	振り返りプリント	第10回	〃	振り返りプリント
第11回	摂食嚥下に関与する筋	振り返りプリント	第11回	〃	振り返りプリント
第12回	摂食嚥下に関与する筋	振り返りプリント	第12回	〃	振り返りプリント
第13回	摂食・嚥下器官の解剖（食道）		第13回	〃	振り返りプリント
第14回	復習と補充		第14回	まとめ	
第15回	まとめ		第15回	まとめ	

授業科目区分	専門	担当科目	嚥下障害 Ⅲ、Ⅳ	単位数	2	選択必修	必修
				時間数	60		
担当教員	望月崇司			受講学科	言語聴覚士学科		
				学 年	3年		
実務家教員としての経歴	回復期リハビリテーション:5年 急性期リハビリテーション:2年 教員業務:4年						
学期区分	前期	月曜日 2時限 、水曜日 4時限		講義室等	402教室		
	後期	曜日 時限		授業形式	講義・演習		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
①2年生で学んだ嚥下障害の基礎を評価・治療へ応用することができる ②嚥下障害の評価を学び、症候メカニズムを説明することができる ③嚥下障害の治療を学び、問題に対する治療を立案できるようになる ④嚥下障害に対して生活を見据えた対応が可能となる	筆記試験
授業概要	教科書
・嚥下障害の評価方法・治療方法を概説していく。 ・嚥下障害の画像や検査結果を提示し、仮説診断・治療方法の立案を行う。 ・調べ学習をおこない、講義開始前に発表を行ってもらう。	摂食嚥下リハビリテーション第3版 摂食嚥下機能評価のコツ 摂食嚥下リハビリテーションQ＆A
	参考書 脳卒中の摂食嚥下障害第3版 嚥下障害ポケットマニュアル第4版

履修上の注意事項	演習の場合、動ける服装で来てください

授 業 の 計 画

〈前 学 期 : 嚥下障害Ⅲ、嚥下障害Ⅳ 〉

第1回	嚥下障害 イントロダクション①(スライド基礎編①)	第16回	段階的摂食訓練と栄養管理経腸栄養、食形態①(スライドリハ編④)
第2回	嚥下障害 イントロダクション②(スライド基礎編⑦)	第17回	段階的摂食訓練と栄養管理経腸栄養、食形態②(スライド実践編②)
第3回	嚥下障害 イントロダクション③(スライド基礎編⑧)	第18回	リスク管理と呼吸器疾患(スライド実践編①)
第4回	スクリーニング検査ー理論編ー(スライド評価編①②)	第19回	脳血管障害と外傷性脳損傷への対応①(スライド実践編③)
第5回	スクリーニング検査ー実践編ー	第20回	脳血管障害と外傷性脳損傷への対応②(スライド実践編③)
第6回	嚥下内視鏡検査①(スライド評価編③)	第21回	手術・補綴による対応(スライドリハ編⑥)
第7回	嚥下内視鏡検査②(スライド評価編③)	第22回	神経変性疾患への対応(スライド実践編④)
第8回	嚥下造影検査①(スライド評価編④⑤)	第23回	認知症や頸椎疾患への対応(スライド実践編④⑤)
第9回	嚥下造影検査②(スライド評価編④⑤)	第24回	嚥下障害のデイリーレポートの記載
第10回	嚥下造影検査③(スライド評価編④⑤)	第25回	復習と演習(見学実習)
第11回	画像診断の演習と重症度分類(スライド基礎編⑨)	第26回	↓
第12回	成人の摂食嚥下障害の対応(スライドリハ編①)	第27回	↓
第13回	間接的訓練ー理論編ー(スライドリハ編②)	第28回	↓
第14回	間接的訓練ー実践編ー	第29回	総合演習①
第15回	直接的訓練と摂食練習の注意事項(スライドリハ編③)	第30回	総合演習②

授業科目区分	専門	担当科目	聴覚障害Ⅰ(小児・成人)	単位数	1	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	万年康男			受講学科	言語聴覚士学科		
				学年	1年		
実務家教員としての経歴	小学校ことばの教室(通級指導) 20年 特別支援学校教育相談(発達障害等巡回相談) 16年 大学院研究(聴覚言語障害)2年 本校教員兼務(非常勤講師)15年						
学期区分	前期			講義室等	201		
	後期	火曜日 2時限		授業形式	講義／演習		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
聴覚障害に関連する基礎事項について網羅的にその概要を理解する。	①授業態度 ②小テスト ③筆記試験 以上を総合して得点化して評価する。
	教科書
授業概要 授業は、項目にそった調べ学習を中心に進める。国試でも聴覚障害分野の出題比率が高いので、1年生のうちから、自分なりのノート作りを始めよう。	言語聴覚士テキスト
	参考書
	配布資料

履修上の注意事項	

授業の計画

〈前学期：〉		＜後学期：聴覚障害Ⅰ(小児・成人)＞	
第1回		第1回	純音聴力検査(気導) 復習
第2回		第2回	他の聴力検査(骨導)・マスキング)
第3回		第3回	他の聴力検査
第4回		第4回	聴覚の発達
第5回		第5回	聴覚障害の分類
第6回		第6回	聴覚障害の原因・関連疾病
第7回		第7回	聴覚障害を取り巻く社会状況
第8回		第8回	聴覚障害児への特別支援(教育)
第9回		第9回	聴覚障害児への療育・訓練(リハ)
第10回		第10回	聴覚障害児・者への支援(医療)
第11回		第11回	聴覚障害児・者への支援(福祉)
第12回		第12回	成人・高齢者・後天性の聴覚障害
第13回		第13回	特異的な聴覚障害(中枢性・機能性)
第14回		第14回	小テスト
第15回		第15回	まとめ

授業科目区分	専門	担当科目	聴力検査Ⅰ	単位数	1	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	万年康男			受講学科	言語聴覚士学科		
				学　年	1年		
実務家教員としての経歴	小学校ことばの教室(通級指導)　20年 特別支援学校教育相談(発達障害等巡回相談)　16年 大学院研究(聴覚障害)2年 本校教員兼務(非常勤講師)15年						
学期区分	前期	水曜日　1時限		講義室等	201		
	後期			授業形式	講義/演習		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
主な聴力検査の概要を理解し、標準純音聴力検査(気導)をひととおり実施できるようになることを目標とする。	①授業態度　②実技試験　③筆記試験　以上を総合して得点化して評価する
	教科書
	言語聴覚士テキスト
・講義と演習を併用する。演習や実技試験グループと座学グループとに分かれての授業になるので、目的意識をもった主体的な授業参加を前提とする。	参考書
	配布資料

履修上の注意事項	①実技試験では、オリエンテーションで示す「福祉実習」同等の容姿服装態度を受験条件とする。②聴力検査室への電子機器、飲食物の持ち込み、私語、無用な体動は禁止。詳細は入口の使用規則に従うこと。③検査練習等は、事前に押印を受けた許可書を検査室前に明示した者のみの使用とする。

授業の計画

〈前学期：聴力検査Ⅰ〉		＜後学期：　＞	
第1回	聴力と検査の概要	第1回	
第2回	オージオメータの操作方法	第2回	
第3回	標準純音聴力検査(気導)　演習	第3回	
第4回	標準純音聴力検査(気導)　演習	第4回	
第5回	標準純音聴力検査(気導)　演習	第5回	
第6回	標準純音聴力検査(気導)　演習	第6回	
第7回	標準純音聴力検査(気導)　演習	第7回	
第8回	標準純音聴力検査(気導)　実技試験	第8回	
第9回	標準純音聴力検査(気導)　実技試験	第9回	
第10回	標準純音聴力検査(気導)　実技試験	第10回	
第11回	標準純音聴力検査(気導)　実技試験	第11回	
第12回	標準純音聴力検査(気導)　実技試験	第12回	
第13回	標準純音聴力検査(気導)　実技試験	第13回	
第14回	標準純音聴力検査(気導)　実技試験	第14回	
第15回	まとめ	第15回	

授業科目区分	専門	担当科目	聴力検査Ⅱ	単位数	1	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	西野 安男			受講学科	言語聴覚士学科		
				学年	1年		
学期区分	前期	曜日 時限		講義室等	201		
	後期	金曜日 3-4 時限		授業形式			

授業のねらい、目標	成績評価の方法
聴力検査の基礎知識を学ぶ	試験による
	教科書
授業概要	聴力検査の実際 補聴器の必要な人・不要な人
	参考書

履修上の注意事項	

授業の計画

〈前学期〉		〈後学期〉	
第1回		第1回	音の基礎
第2回		第2回	音の基礎
第3回		第3回	純音聴力検査
第4回		第4回	純音聴力検査(実習)
第5回		第5回	語音聴力検査
第6回		第6回	語音聴力検査(実習)
第7回		第7回	自記オージオメトリー
第8回		第8回	自記オージオメトリー(ジャガー・SISI・ABLB実習)
第9回		第9回	ティンパノメトリーと耳小骨筋反射
第10回		第10回	ティンパノメトリーと耳小骨筋反射(実習)
第11回		第11回	難聴の種類
第12回		第12回	他覚的検査(ABR・OAE他)
第13回		第13回	後迷路・方向感検査
第14回		第14回	幼児聴力検査
第15回		第15回	まとめ

授業科目区分	専門	担当科目	聴覚障害Ⅱ（疾患学）	単位数	1	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	富井　浩子			受講学科	言語聴覚士学科		
				学　年	4年		
実務家教員としての経歴							
学期区分	前期	曜日　　時限		講義室等	401教室		
	後期	月曜日　1時限		授業形式	講義		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
主な聴覚疾患について理解し、その特徴を知る。 補聴器と人工内耳について、その知識をまとめる。	学期末試験 学習態度 課題評価
	教科書
授業概要 1.取り上げる聴覚疾患について、理解する。 2特徴的な症状とその概要を理解する。 3補聴器と人工内耳について理解を深める。	参考書 言語聴覚士テキスト第3版

履修上の注意事項	

授　業　の　計　画

〈前　学　期〉		〈後　学　期〉	
第1回		第1回	ガイダンス
第2回		第2回	難聴の概要
第3回		第3回	聴覚障害の病態①
第4回		第4回	聴覚障害の病態②
第5回		第5回	聴覚障害の病態③
第6回		第6回	補聴器の概要①
第7回		第7回	補聴器の概要②
第8回		第8回	補聴器の概要③
第9回		第9回	人工内耳の概要①
第10回		第10回	人工内耳の概要②
第11回		第11回	人工内耳の概要③
第12回		第12回	聴覚系総まとめ
第13回		第13回	聴覚系総まとめ
第14回		第14回	聴覚系総まとめ
第15回		第15回	聴覚系総まとめ

授業科目区分	専門	担当科目	小児聴覚障害演習	単位数	1	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	万年康男			受講学科	言語聴覚士学科		
				学年	2年		
実務家教員としての経歴	小学校ことばの教室(通級指導) 20年 特別支援学校教育相談(発達障害等巡回相談) 16年 大学院研究(聴覚障害)2年 本校教員兼務(非常勤講師)15年						
学期区分	前期	金曜日 1時限		講義室等	202教室/聴力検査室		
	後期			授業形式	講義/演習		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
ねらい ①小児聴力検査の概要について、体験しながら理解を深める。 ②検査や評価のデータから、おおよその支援プランの作成や説明ができる。	①授業態度 ②課題 ③筆記試験 以上を総合して得点化して評価する。
	教科書
授業概要	言語聴覚士テキスト
・講義と演習を併用する。演習グループと座学グループとに分かれての授業になるので、目的意識をもった主体的な授業参加を前提とする。	参考書 配布資料

履修上の注意事項	

授業の計画

〈前学期：小児聴覚障害演習〉		＜後学期： ＞	
第1回	小児聴力検査の概要	第1回	
第2回	遊戯的聴力検査	第2回	
第3回	ピープショウ	第3回	
第4回	COR	第4回	
第5回	BOA	第5回	
第6回	ABR 新生児検査	第6回	
第7回	その他の検査	第7回	
第8回	聴覚障害児への支援の概要	第8回	
第9回	症例検討	第9回	
第10回	症例検討	第10回	
第11回	症例検討	第11回	
第12回	症例検討	第12回	
第13回	症例検討	第13回	
第14回	小テスト	第14回	
第15回	まとめ	第15回	

授業科目区分	専門	担当科目	視覚聴覚二重障害	単位数	1	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	中山 喜崇			受講学科	言語聴覚士学科		
				学年	3年		
学期区分	前期			講義室等	401		
	後期	日程調整中		授業形式			

授業のねらい、目標	成績評価の方法
	レポート
	教科書
授業概要	なし
	参考書

履修上の注意事項	

授業の計画

〈前学期〉		〈後学期〉	
第1回		第1回	全盲ろう疑似体験と情報交換
第2回		第2回	
第3回		第3回	
第4回		第4回	盲ろう介助者体験と情報交換 点字導入
第5回		第5回	
第6回		第6回	
第7回		第7回	手書き文字、指点字の理解と通訳体験
第8回		第8回	
第9回		第9回	
第10回		第10回	盲ろう者(児)とのかかわりの基本 手話について
第11回		第11回	ローマ字式指文字、50音式指文字の理解と活用
第12回		第12回	
第13回		第13回	盲ろう者本人との交流、情報交換 (指文字での会話)
第14回		第14回	
第15回		第15回	

授業科目区分	専門	担当科目	聴力検査・補聴器	単位数	1	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	西野 安男			受講学科	言語聴覚士学科		
				学年	2年		
学期区分	前期	曜日 時限		講義室等	202		
	後期	金曜日 3-4 時限		授業形式			

授業のねらい、目標	成績評価の方法
聴力検査の基礎的な項目を習得する	試験による
	教科書
授業概要	聴力検査の実際
学校にある機材については実習を行い基本的な操作を行い機材に慣れ	補聴器の必要な人・不要な人
現場で	参考書

履修上の注意事項	

授業の計画

〈前学期〉		〈後学期〉	
第1回		第1回	音の基礎的な性質
第2回		第2回	音の基礎的な性質
第3回		第3回	補聴器の概要
第4回		第4回	補聴器の試聴
第5回		第5回	補聴器の測定
第6回		第6回	補聴器の測定実習
第7回		第7回	補聴器のフィッティング
第8回		第8回	補聴器の評価
第9回		第9回	補聴器の評価とその方法
第10回		第10回	人工内耳
第11回		第11回	他覚的検査
第12回		第12回	他覚的検査選別検査
第13回		第13回	耳鳴りについて
第14回		第14回	耳鳴検査の実習
第15回		第15回	まとめ

シラバス

授業科目区分	専門	担当科目	見学実習	単位数	1	選択必修	必修
				時間数	40		
担当教員	実習先担当者			受講学科	言語聴覚士学科		
				学 年	3年		
学期区分	前期			講義室等	実習施設		
	後期			授業形式	実習		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
修得した知識・技能・態度を統合して言語聴覚療法の役割・職務を理解し、対象児・者の特徴と問題を把握できる。	実習指導者による評価をふまえ、教務が判定する
	教科書
授業概要	
・言語聴覚士の1日の業務内容を知る ・実習指導者の行う評価・訓練・指導を見学し、言語症状や全体像などを記録する。 ・対象者とコミュニケーションを図り、その上で必要な工夫・話題・話し方などを学ぶ	参考書

履修上の注意事項	

授 業 の 計 画

第1回		第1回	
第2回		第2回	
第3回		第3回	
第4回		第4回	
第5回		第5回	
第6回		第6回	
第7回		第7回	
第8回		第8回	
第9回		第9回	
第10回		第10回	
第11回		第11回	
第12回		第12回	
第13回		第13回	
第14回		第14回	
第15回		第15回	

シラバス

授業科目区分	専門	担当科目	評価実習	単位数	3	選択必修	必修
				時間数	120		
担当教員	実習先担当者			受講学科	言語聴覚士学科		
				学年	3年		
学期区分	前期			講義室等	実習施設		
	後期			授業形式	実習		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
修得した知識・技能・態度を統合して臨床に適用し、言語聴覚療法の評価診断の技能を修得する。	実習指導者による評価をふまえ、教務が判定する
	教科書
授業概要	
・対象者にスクリーニング検査や適切な検査を選択・実施する ・検査結果を分析し、障害メカニズムについて考察・仮説診断を行い、対象者に適切な訓練計画を立案する ・カルテ、実習指導者や他職種から情報収集を行う ・担当症例について、訓練計画立案までの臨床を実施し、症例報告書にまとめる	参考書

履修上の注意事項	

授業の計画

第1回		第1回	
第2回		第2回	
第3回		第3回	
第4回		第4回	
第5回		第5回	
第6回		第6回	
第7回		第7回	
第8回		第8回	
第9回		第9回	
第10回		第10回	
第11回		第11回	
第12回		第12回	
第13回		第13回	
第14回		第14回	
第15回		第15回	

シラバス

授業科目区分	専門	担当科目	病院実習	単位数	8	選択必修	必修
				時間数	320		
担当教員	実習先担当者			受講学科	言語聴覚士学科		
				学　年	3年		
学期区分	前期			講義室等	実習施設		
	後期			授業形式	実習		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
修得した知識・技能・態度を統合して臨床に適用し、言語聴覚療法の評価診断および訓練・指導・支援の技能を修得する。	実習指導者による評価をふまえ、教務が判定する
	教科書
授業概要	
・対象者に適切な訓練を実施する ・訓練実施後の再評価を行い、状態の変化について観察・評価を行う ・再評価結果に基づいて、訓練内容の再検討を行う ・再評価と訓練内容の再検討までを症例報告書にまとめる	参考書

履修上の注意事項	

授　業　の　計　画

第1回		第1回	
第2回		第2回	
第3回		第3回	
第4回		第4回	
第5回		第5回	
第6回		第6回	
第7回		第7回	
第8回		第8回	
第9回		第9回	
第10回		第10回	
第11回		第11回	
第12回		第12回	
第13回		第13回	
第14回		第14回	
第15回		第15回	

授業科目区分	選択必修	担当科目	マナー講座	単位数	1	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	富井　浩子			受講学科	言語聴覚士学科		
				学　年	4年		
実務家教員としての経歴							
学期区分	前期	木曜日　4時限		講義室等	401教室		
	後期	曜日　　時限		授業形式	講義		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
社会人、医療人としての最低限のマナーやルールを知る。 実習場面から就職を踏まえた、実践的なマナーを学ぶ。	学習態度
	教科書
授業概要	
	参考書

履修上の注意事項	

授　業　の　計　画

〈前　学　期〉		〈後　学　期〉	
第1回	心構え	第1回	
第2回	身だしなみ	第2回	
第3回	歩き方・座り方	第3回	
第4回	ホウ・レン・ソウ	第4回	
第5回	ことば使い	第5回	
第6回	ことば使い	第6回	
第7回	履歴書　　演習	第7回	
第8回	履歴書　　演習	第8回	
第9回	電話　受答え　　演習	第9回	
第10回	電話　伝言　　演習	第10回	
第11回	接遇・来客対応	第11回	
第12回	名刺	第12回	
第13回	ビジネス文書	第13回	
第14回	出張	第14回	
第15回	冠婚葬祭	第15回	

授業科目区分	選択必修	担当科目	口腔ケア学	単位数	1	選択必修	必修
				時間数	30		
担当教員	宮本 佑美			受講学科	言語聴覚士学科		
				学 年	3年		
学期区分	前期	火曜日 2時限		講義室等			
	後期	曜日 時限		授業形式	講義・実習		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
嚥下摂食障害者に対するケアの一環として口腔ケアの重要性・実践的知識を身につけること	筆記試験 出席・授業態度 実習態度 レポート提出・内容
	教科書
授業概要	家庭でできる口腔ケア
口腔内の知識を習得 口腔ケアに必要な知識・技術の修得	参考書
	言語聴覚士のための臨床歯科医学・口腔外科学

履修上の注意事項	

授 業 の 計 画

〈前 学 期〉

第1回	口腔ケアの目的と意義について
第2回	口腔への理解
第3回	歯科疾患の基礎①
第4回	歯科疾患の基礎②
第5回	口腔内の補綴物
第6回	唾液について
第7回	口腔ケア用品
第8回	自分の口腔内の現状を知る(ブラッシング実習)
第9回	口腔ケアの方法①
第10回	口腔ケアの方法②
第11回	粘膜の基礎知識
第12回	口腔ケアの方法③
第13回	口腔ケアの方法④
第14回	口臭について
第15回	国家試験対策

シラバス

授業科目区分	選択必修	担当科目	福祉実習	単位数	5	選択必修	必修
				時間数	200		
担当教員	実習先担当者			受講学科	言語聴覚士学科		
				学　年	2～3年		
学期区分	前期			講義室等	実習施設		
	後期			授業形式	実習		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
・一般的態度と臨床的態度を身に着ける ・客観的な観察と記録の方法を学ぶ ・対象児・者の言語症状の把握をする ・机上で学んだ知識と実際の対象者の状態、STの関わりなどを関連づけて考察する力を養う	実習指導者からの意見をふまえ、教務が判定する
	教科書
授業概要	
特別支援学校、小児施設、高齢者施設などでの対象者、指導者とのコミュニケーションや援助について学ぶ	参考書

履修上の注意事項	

授　業　の　計　画

第1回		第1回	
第2回		第2回	
第3回		第3回	
第4回		第4回	
第5回		第5回	
第6回		第6回	
第7回		第7回	
第8回		第8回	
第9回		第9回	
第10回		第10回	
第11回		第11回	
第12回		第12回	
第13回		第13回	
第14回		第14回	
第15回		第15回	

シラバス

授業科目区分	選択必修	担当科目	国家試験対策講座ⅠⅡ	単位数	16	選択必修	必修
				時間数	480		
担当教員	渋谷純子、中村和男、林耕司、望月崇司 坂井隆一、市川理恵			受講学科	言語聴覚士学科		
				学年	3～4年		
学期区分	前期			講義室等	402教室／基礎実習室		
	後期			授業形式	講義・演習		

授業のねらい、目標	成績評価の方法
国家試験合格に必要な知識を習得する	模試の結果等を総合して判定
	教科書
授業概要	国家試験過去問集
担当教員による講義と模擬試験	参考書

履修上の注意事項	

授業の計画

第1回		第1回	
第2回		第2回	
第3回		第3回	
第4回		第4回	
第5回		第5回	
第6回		第6回	
第7回		第7回	
第8回		第8回	
第9回		第9回	
第10回		第10回	
第11回		第11回	
第12回		第12回	
第13回		第13回	
第14回		第14回	
第15回		第15回	